

学校運営協議会の運営状況について

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成19年度指定	東浅川小学校	11回	①夏楽校 ②漢字検定 ③親子なかよし映画会 ④授業参観・授業評価 ⑤登下校の挨拶見守り ⑥学校運営協議会だより ⑦学校行事への参加や、生活指導上の課題検討	①夏楽校・・・児童が日頃味わえない様々な体験活動を行い、日常生活で生かされることをねらいとしている。内容は、昔遊び、バスの乗車マナー、車椅子体験、AEDの使い方、戦争体験学習(資料、講話)等を行っている。 ②漢字検定・・・確かな学力を身につけた児童育成のひとつとして、多くの児童の漢字力向上をねらいとしている。 ③いじめをテーマとして、学校公開後の下校前の時間を活用し、親子でいじめに対して考える機会となるように映画の上映を行う。	①地域参画型の体験的活動「夏楽校」の実施により、保護者や地域の教育力の向上が図られた。 ②漢字検定を通し、多くの児童の漢字力向上が図られた。保護者の参加もあり関心の高まりがみられた。 ③保護者・児童から、あらためて思いやりについて考えたり、人権について考えたりする良い機会となったという、感想が寄せられた。	①夏楽校の充実・発展(1学期) ②漢字検定の充実・拡大(3学期) ③親子なかよし映画会の充実(2学期) ※人間関係をテーマとした映画鑑賞を通し、いじめ、不登校、自殺等の現代社会の問題について、親子で語り合い、共に考え、自他の心に向き合うことをねらいとしている。
	第六中学校	8回	①グローバル人材の育成に関する具体策について協議した。 ②いじめ対策について協議を深めた。 ③教職員の働き方改革について協議した。	①グローバル人材の育成についての取組 ②地域の全面的な協力体制のもと、9月に第8回地域総合防災訓練、3月にロードレース大会を実施した。 ③放課後学習教室(マンディクラス、寺子屋)を継続し、教育サポーター、教員による継続的な取組を行った。	①ヨコタミドルスクールの生徒や留学生との直接交流によって、異なる言語、文化、価値観といった多様性に、直接、触れることができた。多様性に気づき、進んで多様性を理解しようとして、受け入れようとする資質・能力に取り組むことができた。 ②学校運営協議会主催で第8回地域総合防災訓練を実施し、町会の一員としての役割、自助共助の取組を行い、日ごろの生活圏での取組を意識することが出来た。また、青少対主催の下、ヘルシーウォーキング、地域クリーン活動等を実施した。 ③基礎学力の定着を目指した、マンディクラス、寺子屋の開催により、学習につまずきや苦手意識を持つ生徒が継続して学習に取り組む習慣が確立した。	①ヨコタミドルスクール。 ②①のことも関連して、得点力等の基礎的学力を定着させる方策として家庭学習をとらえ、自らの行動を促し、学校評価アンケートでのポイントがあがる取組を推進する。さらに、地域が日ごろから子どもを見守り、寄り添う機運の醸成に努める。 ③地域の一員としての役割を理解し、地域と一体となって、大規模災害発生時に役立つ訓練内容を取り入れる。また、小・中連携を一層促進し、異年齢交流の効果増進を図る。
	宮上中学校	11回	①学校関係者評価、生徒アンケートや学力調査の結果をもとに本校の特徴を分析し、本校生徒にとって身に付けるべき具体的な力を明確にし、その実現に向けた学校運営の在り方について協議を行った。 ②「みやかみミュージアム」の運営 ③子どもを取り巻くSNS利用に関する実態の共有と、地域で取り組むべき課題についての情報共有 ④土曜学習教室、各種検定実施に対する支援体制の確立	①地域と学校を結びつける拠点としてみやかみミュージアムの運営 ・みやかみミュージアムの運営を行う。 ・運営にあたってPTAの協力を得て、幅広い協力者を集める。 ・生徒の作品や活動を地域へ伝える拠点とする。 ②各種行事への協力 ・学校行事、地域活動への地域・保護者の参加が増えるように、広報活動を重視する。 ③学校支援を継続しておこなう。 ・英検、漢検の学校実施、プログラミング教室、学習ひろば・土曜学習教室への支援 ④地域参考学校運営協議会の協力の下、秋祭りの実施	①みやかみミュージアムについては、生徒の作品を展示し、定期的に展示替える体制を作ることができた。また定期的な夜間開放とともに、日中の開館も行い近隣住民の利用を一層促すことが出来た ②学習ひろば・土曜学習教室については、インターシップの学生を活用し、参加した生徒は大変集中して利用することができ、場を管理しているPTA学習支援部との連携もスムーズにできた。 ③秋祭りにおいては、三校共同でお好み焼きブースを出し、三校校長もお好み焼きを焼くなど積極的アピールにより、協議会の連携を強めることができた。	①みやかみミュージアムについては、今年度、生徒の作品を展示し公開する場としては体制が整った。地域に向けて開放するための運営スタッフを広く募集し、学校と地域をつなぐ場としての活動へ発展させることが課題である。また、一般開放のためのスタッフを配置できたが、今後開設の機会を増やしていく必要がある。昨年度より設置の学校掲示板等を一層有効に活用し、今後は地域住民への情報提供の機会を増やす。 ②学習ひろば・土曜学習教室については、自学自習の場である学習ひろばの意義も大切にしつつ、内容の充実を図ることが課題である。学校の家庭学習との取組とも連携しながら、意義を生徒たちに伝えていくとともに、部活動等との連携も考えたい。
平成20年度指定	陶踏小学校	11回	①・PTA総会時に学校運営協議会の説明とTOYO ACTION5+1の協力を呼び掛ける。 ・親子で参加できる企画をおやじの会主催で行う。(ナイトツアー) ・令和元年度の学校評価書を作成し、次年度の改善に生かす。 ②・6月と12月に教員16名と学校運営協議会委員との話し合いを実施した。学力向上の取組の評価と、学校評価書の実態把握に活用した。 ・子どもの居場所分科会が開催するナイトツアーに十数名が参加し、児童管理や受付を行った。	①・特に睡眠時間で課題が見られ、学習用具の忘れ物も減らない。 ・保護者の育児に関する疑問・質問が多く学校に寄せられている。地域で子育てを支援する体制が取れると、トラブルを未然に防げる。 ・TOYO ACTION5+1の周知に心掛け、学校教育をバックアップする体制を作る。 ②・教員自身のライフステージに配慮し、様々な参加形態を今後考えていく。 ・地域のコーディネーターにお任せで、教員自身が地域に開こうとしない。どの教員でも授業の中で地域の教育力を活用できるよう人材バンクのデータ化を図る。	①おやじの会の組織率を上げ、学校行事や学校の経営方針を守り、助ける「お助け隊」を組織する。 ②・主幹教諭を中心に、管理職だけでなく学校教育の状況を伝えていく主体者に育成する。 ・子どもの居場所分科会の行事に参加する教員をさらに増やし、行事の中で役割の一端を担えるよう事前準備をする。 ・道徳授業地区公開講座での取組は継続を強く望んでいるので、発展的に続けていく。	
	浅川小学校	8回	①継続的な「あさっ子Tシャツ」及び「あさっ子トレーナー」の販売と地域住民による手作りのCSの看板作成を通し、更なる児童・教員・保護者との一体化や学校独自イメージアップにつながる取組について協議。 ②学習支援として「日本語検定の実施」やPTAと連携した各種学校サポートなど教育に伴う補助活動について協議。	①地域住民である陶芸家の方が無償で作成して下さった「浅川小学校学校運営協議会」の看板を本校校門入口に設置。また、京王高尾線高尾駅から見える学校の4階にCSの看板を設置。継続的なTシャツの作成とともに協議会の存在を地域住民や保護者にPRしている。 ②本校の学校教育目標の達成のために、また小中一貫教育による学習支援の充実を目的に、日本語検定を中学校の学校運営協議会と連携し、実施した。	①Tシャツやトレーナー販売で捻出した資金を活用し、学校からの要望品を購入し子どもたちや教員に還元した。 ②生徒や児童に日本語への意識の高揚を図れた。また、新入生の給食補助、夏季プールの受付補助、課題を抱えた児童への支援、各種授業補助など、学校の支援やニーズに応えることができた。	①本校の学校経営方針を学校運営協議会で共有、理解をし、地域や保護者へ情報の発信を行う。 ②更なる小中一貫教育の充実により、地域・保護者・学校の連携を強化し、学校以外の特別活動の実施や向上を図っていく。(総合的な学習の拡充サポート)

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成20年度指定	元八王子中学校	9回	①学校や地域の情報交換 ②校内諸問題とその解決について(アンケート実施) ③地域行事を通し、地域と学校をつなげる方法について	①保護者アンケートを実施し、多くの声を集める取組をした。 ②各種検定試験を実施し、地域小学生、中学生、大人を含め、述べ120名程度の参加があった。 ③町内会とも声を掛け合い、地域行事への参加を促した。	①アンケート実施により、保護者の考えや悩みを知ることができた。 ②子どもたちは、検定試験を受けることにより、学習意欲の向上へとつながりつつある。 ③地域行事に積極的に関わることができた。	①今後もアンケートの実施や、たよりの発行を続ける。 ②ボランティアによる放課後学習会を取り入れるなど、各種検定の参加人数が増えるような工夫について考える。 ③地域各行事等に積極的に参加し、学校と地域の橋渡しをする。
	城山中学校	6回	①小中9年間に視野に入れた教育環境を構築するため城山小学校と連携した学校運営協議会を運営する。(中学単独4回、小中合同3回の協議会を開催する) ②学校の公開行事(合唱祭、長唄教室、吹奏楽部定期演奏会など)に地域住民が関心を持ち、多数参加できるようにする。 ③問題行動を起こす生徒や不登校の生徒の保護者に対して担任・管理職と情報を共有し学校復帰を促すために助言と支援を行う。 ④学校に過剰なクレームを持ち込む保護者に対して、学校運営協議会でも保護者と接触し、丁寧に傾聴した上で納得できる解決策を提案する。 ⑤学校環境の美化・整備を推進する。	①小学校とつながった学校運営協議会として、小中学校を見る委員5人と中学校のみの委員5人を配置し、各学期1回の小中合同協議会を開催した。課題を共有しながら9年間を見据え、地域が学校を支えていく取組を進める。 ②公開行事では学校運営協議会でチラシを町会・自治会に配布し、口コミでも参加を呼びかける。 ③校長、副校長、主管教諭、子ども家庭支援センター職員、学校運営協議会会長、地域関係者で「学校サポートチーム」を立ち上げ情報を共有し、必要に応じて適切な対応策を実施する。 ④管理職、担任と情報を共有し、連携しながら、必要に応じて保護者と対応する。 ⑤地域のボランティアに声をかけ花壇の整備を行う。	①地域住民やPTA、有識者、関係機関から多くの意見を出し合い、本校の特色を生かしつつ、開かれた学校としてどうしていくことが望ましいのか協議し、明確な方向性をもって教育活動を推進することができた。②学校行事(体育祭、公開授業、合唱祭など)において多くの委員が参加し、生徒・教職員の反省アンケートとともに次年度の改善に役立つ貴重な意見を出せた。また地域の方々も多数参加し学校運営協議会の設置の目的や役割が明確になり、より地域との連携が深くなった。 ③問題行動を起こして補導された生徒が1名、不登校の生徒も若干名いて十分な対応ができなかった。 ④地域のボランティアが高齢化し、従来のような支援が得られない状況の中で一部の有志のご尽力で花壇を整備することができた。	①各委員が学校を参観する機会を増やし、委員と教職員との交流を深め、さらに学校運営協議会が身近な存在となるように努力する。 ②保護者や地域住民の参加者を増やすばかりでなく、学校行事を支援していただく人材を探す。また城山小学校の学校運営協議会との意見交換を十分にしながら小中の連携を深め、城山地区の地域教育力を高める。 ③問題行動を起こす生徒に対しては「学校サポートチーム」で対応していく。不登校生徒に対しては「無料学習塾」を立ち上げ支援する。 ④PTAを通して事前に保護者からの意見や要望を把握し対応する。 ⑤今後も現在の活動を継続していく。
平成21年度指定	櫛田小学校	12回	①今後の運動会における熱中症対策について、各町会等からのテント借用、設置・片付けの手順等について協議を行った。 ②学校が地域と連携して行う防災訓練を毎年実施し、参加者数を増やすための取組内容の創意工夫について協議した。 ③学力向上の一環として学校が実施していた漢字能力検定を、教職員の働き方改革への支援として学校運営協議会が担うことについて協議した。 ④音楽委員会による吹奏楽を学校の特色ある教育活動として定着させるための予算配当、活動の場の提供について協議した。	①今年度の運動会において、熱中症対策として各町会から児童席用テントを借用した。 ②新たにロープワーク、炊出し訓練、災害用品展示、防災クイズのコーナーを作り、ワークショップ形式の防災訓練を行った。 ③漢字能力検定を土曜実施とし、学校運営協議会・保護者の協力を得た形で実施していく。(本年度よりスタート) ④音楽委員会が新たに地域の病院での敬老の集いに招かれ、吹奏楽を披露した。	①熱中症対策として、急遽各町会、近隣施設からテントを借用する必要があり、学校運営協議会がパイプ役となって各町会からのテント借用を実現させた。 ②参加者が想定していたよりも少なかったが、ワークショップ形式で行ったことで待ち時間が少なく、参加者にとっては内容の濃い学びの場となった。 ③本年度、初めての土曜実施となったが、参加人数は今までとほぼ同程度で、漢字能力検定への関心の高さがうかがえた。実施に向け、保護者ボランティアとして12名の協力があり、各教室での運営を任せることができた。 ④音楽委員会による吹奏楽が学校の特色ある教育活動として定着してきている。	①熱中症が心配されるため、今年度だけでなく次年度以降の運動会でも各町会からのテント借用、設置・片付けを全面的に協力する体制を組んでいただけるよう調整することができた。 ②学校と地域が共同防災訓練を実施することで、自助、共助の精神を醸成するとともに、有事の際の具体的なシミュレーションを行っていききたい。 ③学校運営協議会主体で実施する漢字能力検定への保護者支援をさらに高めたい。 ④次年度、学区域で行われるよこやま南マーチングフェスティバルでのパレードへの参加要請を受け、さらに活躍の場が広がることが期待できる。
	中山小学校	15回	①楽校キャンプの実施について、協議を行った。 ②中山中学校区の三校で三校合同運営協議会を学期ごとに開き情報交換を行う。また、小中一貫教育として、学校公開日に小中合同で地域の専門家を招き、地域交流講座を開くため、計画、実施にあたっての、連絡、調整について協議した。	①夏季休業中に学校運営協議会主催の楽校キャンプを行う。水泳教室、カレー作り、おみこし、防災訓練、キャンプファイヤー等、盛りだくさんのプログラムのため、1学期の学校運営協議会では、楽校キャンプに関する協議を重点的に行った。当日は、保護者、児童、地域住民など合計230名の参加者があり、たいへんにぎわった。教職員も当日は、全員で参加し、役割を担った。 ②小中一貫教育として、小中合同での地域交流講座では、多くの地域の専門家を招き、小中学生が共に活動した。	①楽校キャンプ当日は、保護者、児童、地域住民など合計230名の参加者があり、たいへんにぎわった。教職員も当日は、全員で参加し、役割を担った。 ②地域交流講座では、多くの地域の専門家によって、児童・生徒が交流しながら体験学習を行うことが実現し、保護者にも好評を得た。	①委員だけでは手がいっぱいになるので、保護者の協力をもっと得ることが課題である。次年度は、委員を中心に、広く協力を呼びかける。また、学校ホームページに地域のページを作り、広報活動に力を入れる。 ②教員のさらなる意識の向上が必要であるため、地域交流講座の準備等において、教員ひとりひとりが主体的に関われるようにしたい。そのため、事前の準備段階から教員も関わられるように、打ち合わせなどの機会をつくる。
	宮上小学校	10回	学校の経営計画の承認および人事に関する意見など、学校運営協議会で通常行う協議の他、以下の3点の実現に向けて協議を行った。 ①空き教室を利用した「地域の部屋」の周知および運用方法について ②3校の学校運営協議会共同の取り組みについて ③今後の3校学校運営協議会のあり方について	①空き教室を活用して「地域の部屋」を設置し、地域・保護者と交流する機会を増やすことで今後の学校運営協議会の委員となる人材発掘を目指した。今年度は、地域の部屋を活用して親子工作教室・工作作品展覧会と、化学実験教室を開催した。 ②地域の秋祭りに、三校の学校運営協議会合同で出店を出すことにより、地域に根ざした学校と、学区小中学校の連携を目指した。 ③3校で合同の学校運営協議会のあり方について、今年度より「会長会」を不定期に開催することにより、さらなる連携を模索した。	①地域の部屋を活用した活動を展開することによって、多くの児童、保護者と交流をもつことができた。 ②地域のお祭りに3校の学校運営協議会が出店することにより、学校内だけでなく、地域の人々にも運営協議会を周知することができた。 ③これまでも中学校区3校(宮上中・下柚木小・本校)の合同学校運営協議会を開催してきたが、形式的な会合をもつにとどまっていた。しかし、会長会を開催することにより、協議内容がより現実的で具体的なものとなった。	①地域の部屋の活用は、定期的なイベントや、学校運営協議会の会議に留まるものであった。今後は恒常的な活用方法について検討していきたい。 ②3校合同の具体的な取組のきっかけとしては良いものであったが、このような取組を恒常的に行うには人材資源と予算が圧倒的に欠けているという問題も露呈した。 ③3校合同の運営協議会については、これまでの形式的な会合ではなく、より実のある協議を実現するために、それぞれの会長がさらに連絡を密に取り合うべきである。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成21年度指定	下柚木小学校	10回	<p>◎児童の学力向上に寄与し、保護者同士の関係づくりや連携を構築するため、学校運営協議会がどのように関わっていくか協議した。</p> <p>①校内研究国語「書くこと」、放課後算数教室「下柚木道場」等を通し、どのような取組が児童の学力向上に繋がるか。</p> <p>②学校図書館推進委員会において、児童に図書との触れ合いを増やす取組を通して、その読書活動をいかに高めることができるか。</p> <p>③「放課後見守り委員会(放課後子ども教室)」の存続と運営に関し、今年度、持続的・発展的な運営に向けた組織づくりをいかに発展させることができるか。</p> <p>④地区班担当委員会を通し、児童の地域的活動と安全を保障していくためにはどうしたらよいか。</p> <p>⑤学校林活用推進委員会を通じ、専門家の知見を生かし、本校の特色である学校林という学習環境で、どのような活動を進めていくことが有効であるか。</p>	<p>①各学期に1回、下柚木小学校において、拡大学校運営協議会を実施し、それを構成する「学力向上」「学校図書館活用」「放課後見守り」「地区班担当」「学校林活用」の5委員会の主体的な取組を通じて、児童の教育活動の支援を行う。</p> <p>②各学期に1回、宮上中学校・宮上小学校と共に、3校連携で行い、情報交換とテーマを決めた意見交換を行うことにより、各校の運営に資すると共に、宮上・下柚木地区の児童・生徒の健全な育成を図る。</p> <p>③児童への具体的な支援のため教科等の指導補助など人的な指導環境と、学校施設や物的環境の両面に焦点をあて、「いつ、誰が携わっても、支援を進めることができる」整備を継続する。</p>	<p>①拡大学校運営協議会の積極的な運営により、次のことが実施できた。</p> <p>・学力向上委員会では、保護者ボランティアの教科支援が拡大し、校内研究にも触れ、教員と共に児童の学力向上について考えを深めることができた。</p> <p>・図書ボランティアの活動では、活動の創意工夫が拡大し、図書に興味を示し、読書活動が高まるだけでなく、ボランティア活動そのものを楽しみにする児童が増えた。</p> <p>・放課後見守り委員会(放課後子ども教室)の存続については危ぶまれた時期もあったが、委員の募集や引き継ぎ体制を工夫することにより、安定した運営ができるようになった。</p> <p>・地区班担当委員会では、学区域点検等を踏まえ、安全に関する具体的な取組を進めることができた。</p> <p>・学校林活用推進委員会では、保護者ボランティアによる児童への指導・支援の継続、及び東京都産業労働局講師の指導により、森林や環境についての理解を深めることができた。</p> <p>②3校合同協議会により、多方面から地域住民や児童・生徒の姿を見つめ、今後の地域づくりについて、意見交換を行うことができた。</p>	<p>①拡大学校運営協議会、及び下部組織である5委員会の活動は、安定的であり、自主的・創造的な活動が行われている。中心的なメンバーの交代があったとしても、継続的な活動を可能にするための一定のノウハウづくりができつつある。ただ、児童数減少に伴い、この活動に携わる保護者数も減少傾向にある。各委員会を安定的かつ継続的に確保していくための取組が必要になると思われる。</p> <p>②現在、保護者相互の関係構築づくりに、学校運営協議会委員の支援が大きく関わっており、その関係は良好である。これを大切にしながら、学年の枠を超えた協力関係を築くことが課題となる。</p>
	第一中学校	7回	<p>①学校生活におけるアンケート等の報告を受け、生徒の現状を把握・分析し提言した。</p> <p>②第6回協議会で、各学年主任等と懇談を行い、実態理解と指導・助言を行った。他の回の協議会でも、必要に応じ教職員が参加して説明等を行い、それに対する指導・助言を行った。</p> <p>③総合防災訓練の運営状況を確認し、今後の課題を整理した。</p> <p>④学区内の三小学校(第八小・大和田小・高倉小)の学校運営協議会に参加し、その様子を報告した。</p> <p>⑤検定試験での学習支援の報告をした。</p>	<p>①教育活動アンケートでは、昨年度後期と本年度前期、本年度前期と後期の比較分析を行った。</p> <p>②昨年度と比較して、協議会において教職員との懇談の機会を増やすことはできなかったが、参加した教職員から丁寧に話を聞き、指導・助言を行った。委員が日常の学校教育活動をできる限り参観したり、教職員と話をしたりする機会を増やした。3年生の面接練習を手伝った。</p> <p>③総合防災訓練の反省会に生徒代表者に参加してもらった。</p> <p>④本校運営協議会の委員が学区内の三小学校の学校運営協議会に参加し、それぞれの学校の委員と顔を合わせ、意見交換を行った。</p>	<p>①教育活動アンケートの分析及び提言を学校運営協議会の活動の柱と位置付け、本年度も結果報告の分析を行った。生徒の学校生活上の課題を見出し、改善に向けた提言を行った。</p> <p>②話し合い等を通じて意思疎通を図ることができた。</p> <p>③生徒が、総合防災訓練の話し合いに参加したり当日の司会等を行ったりして、地域の人々や消防署、消防団、市役所防災課の方々のことを知り、いろいろな人に支えられていることを理解し、地域の一員である自覚・責任感を持たせることができた。</p> <p>④小学校の学校運営協議会との強い連携には至っていないが、そのための第一歩となった。</p> <p>⑤英語検定・漢字検定をそれぞれ3回実施した。</p>	<p>①教育活動アンケートについては、今後も同様に取り組む。</p> <p>②教職員との懇談の機会を増やす。また、日常の学校教育活動をできる限り参観する。</p> <p>③総合防災訓練に小学生の参加を促す方法を検討・実施する。</p> <p>④学区内の三小学校の学校運営協議会との連携強化を重要な課題と捉え、そのための取組を検討・実施する。</p> <p>⑤検定試験の学習支援を引き続き行う。</p>
	陵南中学校	9回	<p>①陵南中学校経営計画を受け、保護者・地域の協力を得ることで、より安定した学校運営の実現を図るための活動内容について協議を行った。</p> <p>②生徒にとって確かな学力の定着の実現に向けて学校運営の在り方について協議を行った。</p> <p>③学校が地域の拠点となることを見越して、地域と連携して行える活動について協議を行った。</p>	<p>①職業講話、高齢者体験教室、車いす体験教室、視覚障がい者講演会などの講師選定、依頼などの実施</p> <p>②英語検定、漢字検定の実施、道徳授業地区公開講座講師など、直接学力の向上や授業にかかわる。</p> <p>③陵南中学校ふれあいプロジェクト(校内緑化運動・伝統文化を学ぶ教室)の実施と陵南フェスタ(地域住民との音楽発表会を通してのふれあい)事業の実施</p>	<p>①学校教育・家庭教育・社会教育の相互補完により、学校・家庭・地域が一体となって生徒の教育に取り組むことができた。</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となって生徒の基礎学力の向上に取り組むことができた。</p> <p>③地域のボランティアと一緒に活動することで、生徒に地域の一員としての自覚を芽生えさせ、自己肯定感の向上に寄与することができた。</p>	<p>小中連携を進めていくためには、合同で学校運営協議会を開催していくことが有効であるが、本年度は十分な調整を行うことができなかった。合同協議会の開催に向けて協議を重ねる必要がある。</p>
平成22年度指定	第七小学校	9回	<p>①地域と連携した防災訓練</p> <p>・9月の町会防災訓練への参加</p> <p>・災害等の緊急時飲料水(児童用)の確保・保管場所・費用負担及び購入に関して</p> <p>②登下校の見守りと園芸ボランティアへの活動の継続</p> <p>・登下校の地域の見守り及び園芸ボランティアへの協力依頼。</p> <p>③学習ボランティアやゲストティーチャーの確保について</p> <p>・低、中学年を中心に各学級に入れるよう、ボランティア募集を拡充し、配置を検討する。</p>	<p>①地域と連携した防災訓練</p> <p>・緊急時飲料水(児童用)の購入:7年保存水→6年卒業時に個人に返却(購入予算はPTA予算より計画的に執行していく)</p> <p>②七小見守り隊の活動(学校運営委員が中心となって実施)</p> <p>・清掃活動の見守りと助言・支援:引き続き、清掃指導での支援・助言をお願いしている。</p> <p>・園芸ボランティア:中庭プランターと姫リンゴの木・学級園及び花壇の整備</p> <p>③学力向上支援として、PTAとの協力で行う漢字検定の実施</p>	<p>①PTA本部との連携により、7年保存水の定期購入の実施。今後は第1学年入学時に1年児童分を購入し、6年卒業時に個人に返却する。万が一災害の際、避難所として児童が学校に残留した場合の飲用水を確保している。</p> <p>②地域の育成指導委員や民生児童委員の方々に、清掃ボランティアとして清掃指導の支援をしていただいた。また、栽培・園芸ボランティアの方々の日常的な活動により、学級園の整備、花壇や学校周辺の植栽(プランター)等の環境美化が進んだ。</p> <p>③学校運営協議会としてPTAに協力依頼をし、漢字検定準会場として実施。児童の基礎学力向上の一助となっている。前年度より40名の受検者増(173名)があった。</p>	<p>①地域運営学校組織の定着(3部会)と活動の充実</p> <p>・環境整備→屋上庭園の整備</p> <p>②学校運営協議会(地域運営学校)事務局の発足・組織化</p> <p>・事務局環境整備→事務机、定例会等、PC持ち込み</p> <p>・学校運営協議会への出席依頼の整備</p> <p>③見守り隊の拡充</p> <p>・清掃、園芸、学習支援ボランティア(低学年寺子屋算数)の募集、人材バンク化</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成22年度指定	館小中学校	11回	<p>①学力向上の一環として、サスタ・漢字検定を実施。</p> <p>②体力向上のための走ろう週間に合わせ、走り方講習会を実施。</p> <p>③健康教育の一環として「がん教育」を小6年、中3年で実施。</p> <p>④学校保健委員会を年3回実施する際、学校運営協議会委員の参加を依頼し、学校の保健指導の取組を公開。(3回目は休校となり中止とした)</p> <p>⑤教育目標への取組を振り返り、教職員の自己評価表を公表し、それを基に学校関係者評価を作成。</p>	<p>①漢字検定の申請は57名。漢検合格を目指すことで学習意欲を高めた。</p> <p>②陸上教室では近隣大学に講師を依頼し、走り方教室を実施した。そのため、その後に行われた青少対主催のマラソン大会にも児童生徒が参加し、保護者・地域にも好評だった。</p> <p>③健康教育の一環として行っているがん教育は、今日的な課題であり、小中学校のうちから健康・保健・福祉への関心の高まりとなっている。</p> <p>④学校保健委員会の開催により、学校保健の取組・課題を保護者、地域の方とともに共有することができた。</p> <p>⑤自己評価表を委員に公開し、評価を得ることで学校運営への参画の意識を高めた。</p> <p>⑥学校運営協議会での動画上映は、学校教育活動がよくわかると好評である。</p> <p>⑦次年度、再開できるよう期待する。</p>	<p>①サスタ・漢検に参加することにより、学習習慣を身に付け基礎学力を向上の一助とする。</p> <p>②近隣大学と連携をとり陸上教室等を進め、運動への意欲と基礎体力向上を図る。</p> <p>③命の教育、がん教育や地域を知る活動を計画し、健康・福祉について理解を深める。</p> <p>④地域合同防災宿泊訓練が7回目になり、地域の参加率が防災意識も年々低下傾向にある。土曜日開催とし、学校及び各自治会双方から呼びかけ、内容をより充実させたさせる。また、近隣大学や八王子医療センター等との連携も進めていく。</p> <p>⑤児童数、生徒数の減少には更なる取組を考える。また、様々な事情で配慮を要する児童等の割合は増加傾向にある。個に応じた指導を充実させていく。</p>	
	加住小中学校	10回	<p>①学校経営計画の承認及び経営計画に基づいた各取組についての計画及び実施後の報告。</p> <p>②「加住ふれあいコミュニティ」「スクールファーム」など、学校運営協議会の取組の改善案検討。</p> <p>③小中一貫校として、10周年記念式典を迎える加住小中学校の学校体制・人事についての構想。</p>	<p>①中学部1年生による「スクールファーム」の活動の支援および畑の管理。</p> <p>②「加住ふれあいコミュニティ」でのお年寄りの活動と児童・生徒との交流活動の推進。</p> <p>③学校運営協議会主催の「親子料理教室」の開催。</p> <p>④加住地区町会自治会連合会や加住地区住民協議会との連携による夏季休業中におけるサタデースクールへの協力。</p> <p>⑤学校運営協議会委員による職員会議や研修会への参加。</p> <p>⑥地域人材の発掘。</p>	<p>①総合的な学習の時間の一つの柱としての活動として実施、生徒の体験的な学習を支援することができた。</p> <p>②学校コーディネーターを中心に、加住小中学校を母体とした地域のコミュニティとしての機能を充実させることができた。</p> <p>③スクールファームの取組を食育の一環として位置づけ、学校栄養士の協力も得て、児童及び保護者に望ましい食の在り方について学ぶ機会を提供できた。</p> <p>④地域の諸団体との連携を深め、地域運営学校として地域の人材を教育活動の中で有効に活用することができた。</p>	<p>①運営委員の発掘と取組の充実 小中一貫校として、地域のコミュニティの中心となる意識をもち、学校運営協議会委員は活動を行っている。持続可能な活動を意識し、地域人材の発掘と取組の推進に努めたい。</p> <p>②目指す児童像の実現に向けた協議会運営 社会的自立に向けた児童・生徒の9年間の成長を意識して、学校運営協議会の運営に努め、様々な取組の実現を果たす。</p> <p>③新型コロナウイルスの影響により、11回目の協議会を実施することができなかった。 運営協議会の年間計画については、状況に合わせて柔軟に対応する。</p>
	愛宕小学校	8回	<p>出来る限り、子どもの実情、家庭の様子、先生方の考えなどを敏感に捉え、対応できるようアンテナを張り、互いに密に連絡を取り合いながら連携してここの話し合いを、協議会の会議において常に話あった。</p> <p>具体的には、「さくらの会」(保護者の茶話会:学校運営協議会主催)などで話された「保護者の子育ての悩み」についても共有し、学校生活を親子で安全に遅れるようサポートできる事を考えた。</p> <p>また、学校アンケートの内容についても、学校側としての手紙の返信内容を、柔らかな文面にするなど工夫した。</p>	<p>①学校公開日の授業として「ピーポくんの家駆け込み体験」を企画。実際にピーポくんの家として日頃から子どもたちの見守りをしてくださる地域住民の家に、2年生児童がランドセルを背負い、駆け込む体験をし、それを保護者が見守り、警察、防災課とも連携を取っている。</p> <p>②夏休みに実施する「愛宕Camp」は、親子で体育館に宿泊し、避難所としての利用方法を、利用者側、提供者側の両方から考えることができる。</p> <p>③学校運営協議会の子どもの居場所対応としての放課後子ども教室の実施において、地域住民が講師となって、「ペットボトルロケットを作って飛ばそう」、クリスマスリース作り、お手玉遊びなどを行った。</p> <p>④首都大学東京の敷地内におけるたけのこ堀りや竹の水鉄砲合戦では、大学生とのコラボレーションも行った。</p>	<p>①地域連携については、令和元年度も子ども達の為にできることを実施できた。</p> <p>児童の主体性を高めるための取組は、先生方も話しながら進めることができた。</p> <p>②地域からのクレームが少なく、学校運営についてとても円滑に進めることができています。</p> <p>③学校間連携を進めるために合同会議を実施した。ただ、各学校での報告が主な内容で、共同作業への具体的な取組の話し合いや、企画作成などまでは及ばなかった。今後も課題として継続的に取り組む予定である。</p>	<p>6年間、またはそれ以上の年数、保護者として愛宕小学校に関わってきた方々は、子どもが卒業した後にも、関わり続けてくれており、近年は、地域を耕し学校と協働していく住民が増えている実感がある。</p> <p>今後も、開かれた学校として地域に協力を求め、共に作り上げていかれるような取組を実施していく。</p>
	浅川中学校	11回	<p>①校長の学校経営計画等について。</p> <p>②各部の活動内容について。</p> <p>③学校予算・決算について。</p> <p>④学校評価、学校支援について。</p> <p>⑤生徒会役員との懇談を通した、生徒の願いの具現化について。</p> <p>⑥英検の運営、地域の部屋の活用について。</p>	<p>①高尾駅前花のうおい活動を軌道に乗せることができた。英語検定を新たに実施することができた。部活動リーフレットを更新できた。</p> <p>②生徒会役員との要望を聞く機会を持たた。</p> <p>③英語検定を新たに実施することができた。地域の部屋の活用計画が具体的に進んだ(健康体操、健康マージャンの実施)。</p>	<p>①英語検定の申請は57名。漢検合格を目指すことで学習意欲を高めた。</p> <p>②陸上教室では近隣大学に講師を依頼し、走り方教室を実施した。そのため、その後に行われた青少対主催のマラソン大会にも児童生徒が参加し、保護者・地域にも好評だった。</p> <p>③健康教育の一環として行っているがん教育は、今日的な課題であり、小中学校のうちから健康・保健・福祉への関心の高まりとなっている。</p> <p>④学校保健委員会の開催により、学校保健の取組・課題を保護者、地域の方とともに共有することができた。</p> <p>⑤自己評価表を委員に公開し、評価を得ることで学校運営への参画の意識を高めた。</p> <p>⑥学校運営協議会での動画上映は、学校教育活動がよくわかると好評である。</p> <p>⑦次年度、再開できるよう期待する。</p>	<p>①学校運営協議会の委員後継者の育成。</p> <p>②活動がマンネリ化しないように常に改善を求め協議・実践していく。</p> <p>③生徒会役員との交流により、生徒と地域の距離が近くなった。具体的な成果が出れば信頼関係も生まれ、なお活動が発展すると考える。</p> <p>④運営協議会の中に英語検定部局を置き、実務を担える体制をつくる。</p> <p>⑤地域の部屋を有効活用し、地域コミュニティの場をつくる。</p> <p>⑥学校避難所体制を整えることに寄与していく。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成22年度指定	松木中学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ①不登校の現状把握と今後の対応について ②学力調査の結果をもとに、課題の検討と対策について。 ③浄瑠璃祭りについて。 ④学校の情報開示の方法について。 ⑤教職員との面談による聞き取りや人事について。 ⑥学校評価アンケートの結果について。 	<ul style="list-style-type: none"> ①浄瑠璃祭りを青少対、PTA、地域団体等の協力を得て実施。 ②夏期休暇中の学習教室、英検・漢検・数検の実施などの学校支援。 ③3校合同協議会にて熟議を実施。 ④あさかぜFIKAでの保護者支援。 ⑤教職員との面談による聞き取りや人事について話し合いをもとに具申書を作成。 ⑥学校運営協議会による保護者アンケートの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ①浄瑠璃祭りによって、生徒の活躍の場を提供し、学校と地域、地域住民同士のつながりを深くできた。 ②学習教室、各種検定の実施により学力向上に貢献できた。 ③熟議にて、地域で育てたい子どもについて話しあうことができた。 ④あさかぜFIKAの出席者は、4～10名程度だが、保護者の中で思いを話せる場所として定着してきた。 ⑤学校運営協議会と教職員の面談はたいへん重要である。教職員を知る機会となり、職員室の様子や新年度人事の参考となった。 ⑥協議会のアンケートや協議会だよりによって保護者への周知を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①浄瑠璃祭りが定着し、生徒が参加を楽しみにしたり、若い保護者が積極的に関わってくれるようになっている。 ②学習支援については、人材の確保と生徒への周知が課題である。 ③熟議を1回しか実施できなかったが、来年度も実施し、PTAとの合同開催も考える。 ④あさかぜFIKAは、出席者が固定化してきているが、工夫しながら保護者が何でも言える場を確保したい。 ⑤教職員との面談は続行し、しっかりした人事具申を続けたい。 ⑥アンケート内容を精査し、学校運営の参考とする。
	長房小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会が関わる行事「地域夏祭り(盆踊り)」「CS子ども夏祭り」「算数教室」「人形劇」「川の学習」「道徳授業地区公開講座」「子ども祭り」「三校地域交流会」「やき芋」「どんぐり笛づくり」「昔遊び」等の実施計画について ②子どもの基礎学力の向上について ③「すまいる(放課後子ども教室)」への協力について 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域・保護者・学校と連携した取組を行う。 ②地域の夏祭りに学校運営協議会として出店し、広報活動につなげる。 ③広報誌「さんしょ」を発行し、地域内にも配布する。 ④子ども一人一人に整理用ファイルを寄付し、朝学習(算数)を支援する。 ⑤地域で地域の子どもの見守る「すまいる(放課後子ども教室)」の体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域・保護者・学校と連携した取組が実施できた。地域夏祭りやCS子ども夏祭り、算数教室など児童の参加人数が増加した。 ②地域の夏祭りに学校運営協議会として出店し、広報活動につなげた。 ③広報誌「さんしょ」を年4回発行し、地域内にも配布した。 ④子ども一人一人に整理用ファイルを寄付し、算数の朝学習を支援した。 ⑤すまいる(放課後子ども教室)の推進委員、学習アドバイザー、安全管理員等の組織を整え、週5日開催することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域・保護者・学校との連携をさらに密にして、スムーズな企画・運営を図る。 ②子どもの基礎学力向上への支援に引き続き取り組む。 ③船田小学校、長房中学校と連携した学校運営協議会の在り方を時間をかけて検討する。 ④長房小学校西側の空き地に開発される地域密着型の事業「きらり☆長房ローカル・ネットワーク」が決定され、その一環として、2021年春頃には、長房ファームが再出発されることを期待する。
	柏木小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> ①学校の教育活動における学習の成果と課題、児童の様子や行動を話し合うことで、柏木小学校の喫緊の課題を浮き彫りにし、解決への糸口を話し合う。 ②学校の樹木マップを作るため、細かく計画を立てていくために話し合う。 ③児童が体験学習を通して、より深く感じ、考えるような計画を立てる。 ④子どもの学力を向上させるため、必要な学習を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①老人会の方が1年生に昔遊びを教える。また、囃子連にお囃子を学ぶ。地域の方と野菜の栽培活動を行う。 ②東京ベーシックドリルや漢字検定への活動も継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①老人会の方が1年生に昔遊びを教えることで、世代を超えたつながりを持つことができ、交通安全ボランティア等で出会うと積極的に挨拶をするようになった。また、囃子連にお囃子を学び、地域のお祭りに参加することで、地域の中の一員としての自覚を持つようになった。また、栽培活動を行い、収穫祭を行ったことで、精米の尊さと食べることの大切さを感じていた。 ②東京ベーシックドリルに計画的に継続して取り組んだことで、学力調査の学校平均点が上がってきた。また、漢字検定へも継続して取り組んだことで、合格率が上がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校の樹木マップづくりの進行が遅々として進まなかった。完成までの進行計画をしっかりと立てる必要がある。また、学校運営協議会としてどのように学校をよりよくしていくかを理解し、協力を得るために、保護者との接点をより強くするための方策を立てる必要がある。 ②学力向上のため、より効果的な方策を立て、ボランティア等を募集して、きめ細やかな学習支援ができる体制を構築する必要がある。
平成23年度指定	南大沢小学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育目標の重点課題の学力向上や様々な課題について、学校運営協議会委員と教職員がともに話し合える場を学期に3回実施する。 ②学校運営協議会と学校コーディネーターが中心となり、地域住民がより南大沢小学校の教育活動に参加し、学校と連携して推進する人材開発をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校園(稲作、サツマイモ等の野菜作り)を近隣の保育園や幼稚園とともに保幼小連携の大切な交流の場として体験できるように学校運営協議会が教職員とともに取り組む。 ②南大沢地域自主防災協議会と連携して、災害時に備えての避難訓練を秋に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育目標の重点課題の学力向上や様々な課題について、学校運営協議会委員と教職員がともに話し合える場を学期に3回実施することができた。 ②南大沢地区町会等と八王子市防災課、消防団、薬剤師会と連携して11月に地域防災訓練が実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①次年度も教職員と直接学校運営協議会のメンバーが学校の教育課題等を考え解決できるよう推進する。 ②広報活動をさらに充実させ、地域の人材開発を行う。 ③南大沢中学校、柏木小学校の学校運営協議会と共同開催を実施する。
	松木小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ①今後の、先を見据えた、学校運営協議会の在り方について。 ②目標をもって学習に取り組む姿勢を養うことを目的に、漢字検定や学習会を実施し、運営を学校運営協議会で行う。 ③学校運営協議会委員と教職員との懇談会を実施する。 ④学校運営協議会への関心と理解を進めるため、また保護者との連携も図るため、保護者の意見を吸い上げる必要がある。 ⑤委員が固定化し、運営が形骸化しないよう、新しい委員の選出を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会の活動報告や活動実施に向けての議論だけでなく、学校運営協議会自体の在り方について深く議論を行った。 ②漢字検定 保護者・地域の方によるボランティアを募集し、検定準備・当日の監督等を分担した。また、成績上位者は朝会で表彰し、意欲の向上を図った。 ③放課後学習会・夏休み学習会・春の学習会 保護者・地域の方によるボランティアを募集し、児童の学習の指導や見守りを行った。 ④昨年に続き、学校運営協議会委員と教職員との懇談会を11月に実施し、グループ分けを行い、ワークショップを開催した。 ⑤学校運営協議会についてのアンケートを保護者に実施した。 ⑥新しい委員選出の声掛けを随時行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①深く掘り下げた議論をすることで、学校運営協議会委員同士のつながりも一層強まり、初心に戻り、これまでのフィードバックを行うことが出来た。 ②漢検については、全学年の希望者対象で、105人が受検し、各自が目標とする級に挑戦した。保護者・地域ボランティアも12名参加。受検者・ボランティア共に、昨年度より微増した。また、優秀な結果を出した児童を表彰し、漢字検定を目標に、日ごろの漢字学習に意欲的に取り組む児童が増えてきた。 ③放課後学習会・夏休み学習会・春の学習会については、放課後と夏休みは、地域ボランティアが集まらなかったが、春の学習会では、6名の地域ボランティアを見つけることが出来た(但し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止)ので、来年度の学習会に継続してボランティアをお願いする。 ④ワークショップを通じた教職員との情報交換により、お互いに知る機会となり、教職員の想いや考え方も吸い上げることが出来た。そのことで、教職員との距離もより一層縮まり、連携して学校運営を考えていく良い機会となった。 ⑤アンケート結果から保護者の学校運営協議会への考え方や要望を吸い上げることができた。 ⑥令和2年度より、2名の新しい委員を選出することが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ①改めて、来年度の目標設定を行ったので、その目標に向かい鋭意努力していく。また、新しい人材の発掘と育成は、継続した課題である。 ②受検者や受講者が増えると運営者の負担が大きくなるため、役割分担できる人材確保が課題である。 ③教職員との懇談は継続し、より一層の連携強化と、より良い学校運営の向上を目指すべく、努力していく。 ④アンケート結果を精査し、学校運営の参考とする。 ⑤新しい委員の発言やアドバイス等に期待するとともに、多様な議論の場となるように努力する。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成23年度指定	長池小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ①不登校の現状把握と今後の対応について ②運動会における熱中症対策 ③登校見守りボランティアの募集 ④長池小学校避難所運営会の立ちあげ ⑤教職員との連携・交流 ⑥学校評価アンケート、協議会アンケート ⑦感染症対策、休校対応 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動会における遮光ネットを全児童に対して設置 ②漢検の実施などの学校支援 ③ながいけと合同で登校見守り学校安全ボランティアを募集 ④長池小学校避難所運営会の立ちあげ ⑤教職員との合同の昼食会を行い、その後懇談会をはじめて実施 ⑥学校運営協議会による保護者アンケートの実施 ⑦3校合同協議会にて熟議を実施 ⑧浄瑠璃祭りを青少対、PTA、地域団体等の協力を得て実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年はつばさ学級と1、2年生に遮光ネットを実施したが、今年は全学年まで拡大することができた。 ②漢字検定の実施により漢字に関心をもち、漢字学習に貢献できた。 ③信号のないT字路に毎日交代でボランティアが立つことができた。 ④避難所運営会を立ちあげた。1町会、1自治会、管理組合が参加し、東京防災の専門講師による避難所運営の課題について講演会を持つことが出来た。 ⑤教職員との懇談会を昨年度実施できなかったが、本年実施することが出来た。 ⑥協議会のアンケートを実施し、協議会だよりによって保護者への周知をはかった。 ⑦熟議にて、地域で育てたい子どもについて話しあえた。 ⑧学校運営協議会、三校、保護者、地域、生徒・児童が協力して実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①暑い時期の運動会の内容について考える。 ②学習支援については、人材の確保と生徒への周知が課題である。 ③登校見守りボランティアへの参加を促し、メンバーが固定化しないように配慮したい ④予定していた避難所開設訓練が感染症の流行のため実施できなかったため、本年は本訓練まで実施したい ⑤本年は初めての懇談会であったが、次年度はテーマを決めて熟議を行いたい。 ⑥アンケート内容はほぼ8割が認知するようになったので、アンケート項目を精査 ⑦熟議を1回しか実施できなかったが、来年度も実施し、PTAとの合同開催も考える。 ⑧浄瑠璃祭りが、定着し、生徒が参加を楽しみにしたり、若い保護者が積極的に関わってくれるようになってきている。
	南大沢中学校	5回	<ul style="list-style-type: none"> ①おはコミ、コミュニケーション通信で取組 ②声楽鑑賞教室の実施 ③食育への支援、助言 	<ul style="list-style-type: none"> ①毎月第1水曜日を挨拶推進の日とし、青少対・小学校、保護者・地域の方などの参加で行っている。 ②5人のプロの歌手を招いて声楽鑑賞教室を行う。学校公開日として、生徒は全員が声楽鑑賞教室に参加する。また保護者・地域の参加を呼びかける。また地域の小学校にも案内を配布して、小学校の児童・保護者にも参加を呼び掛ける。地域と学校の連携・協働に向けた取組としている。 ③年2回、給食試食会を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域に定着した取組として、高く評価されている。また、挨拶を通して好意的な会話も行われている。 ②今年度は、台風の接近に伴い中止となったが、プロ歌手のリハールなどを通して、生徒は、得るものがあった。 ③新型コロナウイルス対策に伴い給食試食会の実施はできなかったが、資料配布などを通して食育を伝えることはできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今後とも、継続して行く。課題としては長く続けていくシステムを考え、参加人数の減少を防ぐことである。 ②次年度は、予備日を計画するなど、対策を考えて進める。 ③安全を優先しながら、進めて行く。
平成24年度指定	横山第一小学校	12回	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもたちの課題の一つに、地域での安全な過ごし方ということがあげられたことから、自転車の乗り方、登校班での集合から登校の様子について情報交換をし、協議した。 ②いじめ対応の現状を報告した際に、いじめ加害児童の保護者のもつ我が子中心な考え方について、どうすれば是正できるかが協議の対象となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域での安全な過ごし方ということがあげられたことから、夏休み前と冬休みの前には交通安全指導の徹底を地域からの声もあるという形で徹底した。 ②学校運営協議会は地域の代表であり、いじめ対策委員会として、いじめ対応の第三者機関でもある。いじめ加害者の保護者からの訴えに対しても、公正に聞き入れることで、円満な解決を迎えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①交通安全指導を各長期休み前に徹底したことで、危ない自転車の乗り方をしているなどの地域からのクレームはなく、事故等の報告もなかった。安全に長期休みを過ごせた。 ②学校運営協議会での対応は、いじめ加害児童とその保護者対応に試行錯誤しながらも取り組んでいる学校側に対して大きな応援となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の愛校心や郷土愛を育てることは、地域の本校への愛校心を育てることにつながるため、地域の力で地域の子もたちを育てる視点で、今後も学校運営協議会との連携に取り組んでいきたい。 学校運営協議会を核とし、協議会委員の人脉や専門性や見識を生かしながら、学校の教職員と保護者・地域とが連携した組織的な学校運営を行うことで、児童の愛校心や郷土愛を育むことが今後も期待できる。
	上川口小学校	6回	<ul style="list-style-type: none"> ①NPO法人と連携した体験学習(稲作)や自然観察学習についての取組等について ②学力向上、心の育成、学校行事、地域行事等、学校と地域の連携した活動の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域は新しい取組としてNPO法人の地域おこしの一貫として水田の再開発へ取り組んでいる。その一部の水田を活用して学校の行事として稲作を組み入れた。 ②継続した読書活動、学力向上への支援、児童の学習支援・心の育成、学校美化活動、地域行事等に取り組む、学校と地域が協働できた。 ・年15回の読み聞かせ活動を行った。 ・道徳授業地区公開講座を共催した。 ・サマースクールを5日間開催した。 ・地域人材を活用したいのちの日の学習や各学年の学習活動を展開した。 ・運動会等の行事や地域の夏祭り等で協力できた。 ・地域防災活動を連携してできた。 ・年5回の学校美化活動ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②の取組から ・地域の方の生きがいの場とともに協働体制が図られた。 ・ボランティア参加により、学力の向上と安全等が充実した。 ・学校(教員)に協力する具体的な活動が明確になった。 ・教育活動が活性化した。 ・関わり合った方を大切にすることで思いやりの心、郷土愛、愛校心等、道徳教育の充実が図られた。 ・地域の人、物、自然の繋がりを知り、学ぶ楽しさや学ぶ意味を知ることができ、学習意欲の向上が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②の共通した課題として ・授業時数の確保、少子高齢化による地域協力者の減少、各家庭の就労による学校教育協力への多忙感等の現状で、各種取組への難しさがある。学校でできること、地域でできること、保護者でできることを明確にし、無理なくスムーズな活動ができるように定着を図ることが今後必要になっている。 ・学校として各行事の精選や学習指導計画、指導方法の工夫により、授業時数の確保、学力の定着、思考力の向上、心の育成等を図るとともに、地域、家庭の教育力を有効に取り入れていく教育課程編成を見直していく。
	恩方中学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> ①教育環境の整備について ②学力向上への取組について 	<ul style="list-style-type: none"> ①夏季休業中に、生徒・教員・PTA・地域の方が混在したグループを形成して、特別教室・廊下のワックスがけ、階段・流しの清掃を行う。 ②本校を準会場として、年3回の英語力を計る検定を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日常的に作業に取り組むことのできない箇所について、環境整備を行うことができた。また、四者の共同により、それぞれの立場で愛校心や奉仕の精神を育むことができた。 ②検定への取組や合格を通して、子どもの自尊感情が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校舎内の天井壁などの環境整備や掲示物の充実に向けての取組を支援していく。 ②学区の小学校に漢字検定の取組を促すことで、小中連携の推進と合同取組を検討する。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成24年度指定	由木中学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> ①いじめについて ②不登校について ③学校経営計画、教育課程届について ④教育目標の見直しについて ⑤学校保健について ⑥花いっぱいプロジェクトについて ⑦由木中生の姿と思いについて ⑧ボランティア活動の推進について 	<ul style="list-style-type: none"> ①市の課題であるいじめについて協議する。 ②本校の課題である不登校について協議する。 ③英検・漢検の監督等の運営に携わる。 ④教育目標の見直しについて協議する。 ⑤学校保健委員会に参加して生徒の実態について知り、協議する。 ⑥花いっぱいプロジェクトに参画する。 ⑦ビブリオバトルを主催する。 ⑧伝統・文化講座を主催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①課題と対応の実情を知ることができた。 ②社会に開かれた教育課程を推進することができた。 ③教育目標の改定に至った。 ④生徒の健康面の実態と課題について把握できた。 ⑤学校の環境整備に協力できた。 ⑥先生任せではなく、英検・漢検の監督を務めるなどできた。 ⑦ビブリオバトルや楽習会を主催することができた。 ⑧バステルアートやめかご作りの講座を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育の現状と課題について正しく把握すること。 ②学校をよりよくするために学校関係者評価を厳正に行うこと。 ③働き方改革推進の中、学校にできるだけ負担をかけないこと。 ④生徒が活躍できる場を提供すること。 ⑤保護者の啓発を行うこと。
	第二小学校	9回	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者・地域等の思いや願いを教育活動に反映させるための意見集約を実施。分析を通し、今後の教育活動に反映させる。 ②学校だよりやホームページ、地域運営学校だより等を活用し、学校運営協議会の活動や取組、地域行事等を広く紹介・周知する。 ③地域連携を重視した具体的な活動・取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①課題把握・迅速対応⇒本校の教育の強みや本校が抱える教育課題、保護者・地域のニーズ等を把握。保護者・地域を対象とした学校評価アンケート調査を年2回実施。 ②アンケート実施・分析⇒運動会・学習発表会、学校公開・学校説明会、授業参観等は毎回アンケートを実施。課題把握、情報共有、迅速な対応。 ③学校運営協議会の取組⇒学校運営協議会制度の趣旨、活動内容の周知を目的とした広報活動。学校だより、ホームページ、地域運営学校だより等にて活動の様子を紹介。 ④いじめ防止の取組⇒学校運営協議会主催の「道徳授業地区公開講座 講演会」開催。国立ハンセン病資料館 前学芸部長による「やさしさとは」の講演会実施。 ⑤学校地域合同防災訓練⇒避難所用備品・災害時特設公衆電話確認。防災課・消防署員・消防団員・中学生(ボランティア)等による防災訓練実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ①積極的な広報活動⇒学校の考え、今後の取組等について積極的の回答。保護者のニーズ、地域住民の思いや願いを教育活動に迅速に反映。 ②学校評価アンケート(地域)回収率向上⇒令和元年度から実施。地域回収率上昇(20%⇒36%)。学校への関心が高い。積極的情報発信・地域行事等への参加。学校への信頼高。地道な活動が評価。 ③学校運営協議会の活動紹介⇒学校運営協議会の役割や活動内容紹介。学校だよりにより毎回、学校運営協議会の協議内容を掲載。ホームページに「学校運営協議会」のバナー設置。地域運営学校だよりを毎月発行。保護者・地域からの高評価。 ④いじめ防止の取組⇒学校運営協議会主催で道徳授業地区公開講座 講演会を開催。国立ハンセン病資料館 前学芸部長による「やさしさとは」の講演会実施。保護者、地域、教職員等が参加。家庭力、地域力の大切さを再確認。 ⑤避難所開設に向けて⇒防災倉庫内から避難所用備品、災害時特設公衆電話を体育館舞台下で管理。 ⑥PTAによる備蓄品購入⇒全校児童の非常食を毎年購入。災害時への対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ①開かれた学校づくり⇒校長室前の掲示板には、児童作品等を掲示。地域の方々の作品等も展示予定。地域の方々がいつでも利用できる「地域の部屋(仮称)」設置予定。 ②積極的な情報提供・情報共有⇒学校だよりは「A3版で2～3枚(8～12ページ)」作成。教育活動の様子を詳細に紹介。ホームページは毎日、更新。今後も継続。 ③地域連携の深まり・充実⇒学校地域合同防災訓練を毎年、開催。町会長、自治会長、消防署員、消防団員、市職員、中学生(ボランティア)等、互いの顔、名前を知り合う。発災時の対応がスムーズ。今後も継続。 ④地域行事等への積極的参加⇒夏祭り(6か所)へ、教職員が率先して参加。一人が2回以上参加。今後も継続。
平成25年度指定	高倉小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> ①オリンピック・パラリンピック教育の「高倉小学校2020レガシー」を、継続的な取組としていけるよう、検討する。 ②放課後子ども教室における補習的支援の場を、学校運営協議会が中心となり、実現することができた。今年度は都立八王子東高校の生徒ボランティアを募集し、伝統となるようシステムづくりを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1～6年生それぞれの学年ごとにニューススポーツを体験するニューススポーツ・デイ！を開催し、学校運営協議会メンバーがゲストティーチャーとなって、オリパラ授業を行った。また、今の子どもたちは体験格差もあるのではないかと問題意識から、学期に一回程度、土曜日にニューススポーツ体験の活動を行うことを計画した。 ②放課後子ども教室において、学習スペースを開設し、補習的な場を設定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1～6年生それぞれの学年ごとにニューススポーツを体験することができた。パラリンピック競技種目のボッチャを体験することで、パラリンピックへの理解と関心が深まった。また、土曜日の「ニューススポーツ体験」の活動を行い、体験格差をなくす手立てを講ずることができた。 ②学習スペースでは、コンスタントに児童が来て学習を進めた。友達と学習したり、地域の方に教えていただくなど、寺子屋的な空間となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ニューススポーツの器具などを購入してそろえながら、地域の方が中心に進めていけるような体制づくりを進める。 ②放課後子ども教室の学習スペースが定着したので、コロナ対策がある程度落ち着いたら都立八王子東高校の学生ボランティアを募集し、進めていきたい。
	高嶺小学校	10回	<ul style="list-style-type: none"> ①学力向上を達成するための学校と保護者、地域と連携した取組の継続と充実について→放課後補習教室(くすの木教室)の実施方法と参加促進についての検討。 ②「豊かな感性」「自己肯定感」「自己有用感」の育成につながる環境美化活動について→親子草取り、花の苗の植え付け、地域クリーン作戦への参加促進に関する協議。焼き芋大会、餅つき大会等、世話人会や放課後子ども教室、青少年と連携した取組の充実について。 ③児童の安心・安全な生活を確保するための学校運営協議会の役割について→総合防災訓練の開催について検討・協議。安全ボランティアの活動に関する情報交換。 ④その他→学校運営協議会の活動の充実と、保護者や地域住民への理解啓発を図る取組の検討等 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習支援部が中心となった地域の学習ボランティアによる「くすの木教室」の実施→算数科における児童の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指し、東京ベーシック・ドリルを活用した学習教室を年間50回程度実施している。 ②環境美化部・体験活動部協働による活動→親子草取り(5・10月)、環境美化活動(随時)、焼き芋大会(12月)、餅つき大会(1月) ③三校学校運営協議会の開催(年間3回)→近隣三校の学校運営協議会の合同会議を開催し、情報交流を行っている。お互いに合流できるような仕組みを模索中。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各部会が連携・協働した活動を展開することで、学校と家庭、地域とが一体となった教育活動の充実が図られ、学校の教育目標の達成に向けた取組を実践することができた。 ②学校・家庭・地域が協力し、身の回りの環境を整えたり、地域の一人として地域を支えていく環境を提供し、児童が自分の暮らしている地域の大切さや、自己有用感を感じる事ができた。 ③小中学校三校の学校運営協議会の委員が合同会議を行い、各学校の状況や学校運営協議会の活動について情報交流を行うことで、小中学校のつながりの強化や地域全体で地域の学校を支援する基盤の構築が図られている。学校運営協議会や地域運営学校としての認識が広がり、学校の教育活動への理解が深まり、学校の教育活動に協力的に参加する保護者、地域の方が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部署が中心となって実施した取組を通して築いた地域との結びつきを生かし、保護者・地域住民の学校教育への参画を促し、地域に開かれた教育課程を目指す。 ①授業とリンクさせた学習の補完となる補習教室の実施方法や内容の検討。 ②環境美化活動の実施計画の作成と、積極的な参画への促進。 ③関係機関との連絡・調整と、会議日時の設定。内容の充実。 ④情報発信の継続と内容の充実。保護者、地域住民の理解啓発を図る情報ツールの拡充。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成25年度指定	ひよどり山中学校	10回	<p>①本校の教育活動に対する理解と協力を図るため、学校行事への参観・参加等を学校運営協議委員・PTAと連携し、地域・町内会等に積極的に働きかけた。</p> <p>②学校コーディネーターと学校運営協議委員との連携により、学力向上に向けた、学習ボランティア等を募集・確保し、その活用等について充実を図るよう協議して取り組んだ。また、総合的な学習の時間に実施する農業体験学習の一層の充実のため支援の在り方や次年度のビジョンについて意見交換を行った。</p> <p>③地域連携行事(青少対行事、地域地子連、センター祭等)への学校の参加の在り方について協議した。</p>	<p>①地域の人材を生かし、地域に根ざし・地域と協働する特色ある学校教育を実現することを目的に、「学力向上」「農業体験学習」「地域行事との連携」「2020レガシー」の支援の在り方を熟識し、地域運営学校づくりに取り組んでいる。</p> <p>②学力向上・・・生徒の学力向上・支援を目指し、定期考査前に放課後学習を実施した。また、夏休み学習教室を5日間実施した。</p> <p>②農業体験学習・・・総合的な学習の時間で農業体験学習を支援しクオリティーを高める。</p> <p>③地域行事との連携・・・学校施設を利用(地域子ども会キャンプや市農業塾講義への施設貸し出し等)し、学校と地域との連携を深めるために地域行事(青少対行事・地域祭等)に吹奏楽部生徒・生徒有志和太鼓演奏を行った。生徒有志による和太鼓演奏を日本伝統文化の継承として取り組み、2020レガシーとして学校運営協議会と連携し運営している。</p>	<p>①年度末に実施した、学校評価アンケートや地域諸会議等の報告から、本校生徒の参加を求める地域の声が多く、地域青少対等と連携して取り組む行事参加(ひよどり山音楽祭・クリーン作戦等)に参加し好評であった。</p> <p>②学力向上の取組として夏季休業期間と放課後の学習教室を継続して実施できた。また、授業等での学習補助ボランティア(技術科木工学習補助や保体科剣道指導、国語書写指導等)による支援が得られた。</p> <p>③教員と学運教委員・PTAが三位一体となり生徒有志による和太鼓の演奏活動を運営・支援することができた。</p>	<p>①総合的な学習の時間に実施する農業体験学習については、次年度希望を縮小し、クオリティーを高める取組を展望している。学校運営協議会とともに特色ある活動を目指し検討を継続する。</p> <p>②学校と連携して取り組む行事等の活動計画(青少対行事、自治会行事、学力向上のための学習教室日程、学習支援計画等)について、教員の役割分担を明確にし、具体的な活動に向けて準備・共通認識を深めることに継続取り組みたい。</p> <p>③有志和太鼓演奏(ひよどり太鼓)を本校の2020オリンピックレガシーに位置づけ、学運教・PTAと連携し三位一体で今後も取組を継続する。</p>
	由井中学校	8回	<p>①防災支援組織では、自治会と連携した避難所運営・炊き出し訓練を引き続き実施する。(運営面の分担と生徒の活動割り当ての修正)</p> <p>②地域連携部会では、各町会自治会で行われる、地域行事(夏祭りなど)に生徒が参加協力できるように調整する。</p> <p>③教育支援部会では、スーパーサイエンス・テクノロジー授業(科学実験教室)及び高尾山ESDを行うに当たり、企業や外部機関との打ち合わせを実施する。</p>	<p>①本校で実施している防災訓練(炊き出し訓練等)では、由井中学校が全員参加し、地域の担い手として中心的に動き多くの成果を収めている。</p> <p>②地域貢献や行事への積極的な参加により、由井中生の自尊感情・自己有用感を有意に高く継続して維持できている。</p> <p>③スーパーサイエンス・テクノロジー授業(科学実験教室)を6月、高尾山ESDを9月に実施し、生徒全員に興味、関心を持たせる授業を行っている。</p>	<p>①継続してきた由井中生全員参加の防災訓練(炊き出し訓練等)では、生徒たちが率先して動き、地域を支える人材として育てている。</p> <p>②地域貢献や行事への積極的な参加により、由井中生の自尊感情・自己有用感を有意に高く継続して維持するとともに、地域の人材育成に貢献することができている。</p> <p>③スーパーサイエンス・テクノロジー授業、高尾山ESDの実施によって、生徒や地域の方々も興味・関心と共に生涯学習の役割を持つ授業を進めることができている。</p>	<p>①由井中学区の町会・自治会単位で連携可能な防災訓練の実施について検討する。</p> <p>②地域貢献を目的に、町会・自治会の行事への積極的な参加を促す広報活動の検討。中学生がスムーズに地域組織の中に入れるように、学校・地域・学校運営協議会で連携していく。</p> <p>③スーパーサイエンス・テクノロジー授業(科学実験教室)・海洋教育授業・高尾山ESDの内容を検討し、生徒や地域への生涯学習の機会として定着が図られるように継続して進めていく。</p>
	中山中学校	12回	<p>①三校合同学校運営協議会における熟識(三校合同での検定の実施)</p> <p>②40周年行事の取組</p> <p>③学校運営協議会リーフレットの改訂</p> <p>④地域交流講座の企画と花一輪活動</p>	<p>①英語検定2回、漢字検定2回を学校運営協議会主催で実施</p> <p>②40周年行事として、航空写真を中山小学校と合同での撮影</p> <p>③学校運営協議会を紹介する独自のリーフレットの改訂</p> <p>④地域の方を講師に招いた地域交流講座の実施と継続した花一輪活動</p>	<p>①学校行事の関係から昨年度は英語検定1回、漢字検定2回であったが、生徒のニーズに応えるため、英語検定も2回実施した。受験者数、合格者数も伸びてきた。</p> <p>②開校したときに中山小学校と合同で航空写真を撮影していることから、40周年の今年も同様に中山小学校と合同で撮影した。また、地域や保護者の方も招いての撮影を行った。</p> <p>③内容を精査し、見やすいリーフレットが完成した。</p> <p>④土曜日に開催し、生徒と地域の方が直接ふれあう機会となっている。また、学級に花が飾られることで、環境面で充実している。</p>	<p>①これまで、漢字検定は中山小学校の児童も本校にきて行っていた。小学校で英語が教科になることから、三校合同で実施できないか提案をしている。試験監督等のボランティアの確保が課題である。</p> <p>②40周年の大きな記念として撮影ができた。レガシーとして心に刻まれたいと願う。</p> <p>③2～3年で今後も見直しを行う予定である。</p> <p>④継続して実施していくが、教員数の減員による講座数の精選が必要である。</p>
平成26年度指定	第五小学校	9回	<p>①本校教育活動の推進について</p> <p>②放課後こども教室の運用について</p> <p>③地域合同防災訓練のさらなる充実について</p> <p>④学力向上をめざした「寺小屋事業」の内容の充実について</p>	<p>①オリパラ教育の推進</p> <p>②放課後こども教室について、室内や校庭での活動の充実</p> <p>③地域と連携した地域合同防災訓練の推進</p> <p>④学力向上をめざした寺小屋事業の実施</p>	<p>①児童だけでなく、保護者にオリパラ教育の意義を理解してもらうことができた。</p> <p>②学校だけではなく、地域や保護者もかかわることで、それぞれの取組が活性化し、子どもたちの活動の意欲が高まった。</p> <p>③防災の意識向上が、学校だけではなく、家庭・地域にも広がった。</p> <p>④確かな学力を定着させることができた。</p>	<p>①今後も、学校だけではなく、地域や保護者とのかかわりを重視し、それぞれの取組が活性化させることが重要である。</p> <p>②さらなる確かな学力を定着させることが重要である。</p>
	清水小学校	8回	<p>①学力向上について、補習、漢字検定と2つの方法で取り組む。</p> <p>②あいさつ運動に、学校・家庭・地域で協力して取り組む。</p>	<p>①毎週金曜日に補習を行い、地域の学習ボランティアに協力していただく。</p> <p>漢字検定を1月に行い、地域や保護者のボランティアに協力していただく。</p> <p>②PTAあいさつ見守り活動への呼びかけを行う。</p> <p>③学校安全ボランティア会議を行う。</p>	<p>①補習の時間に、学校運営協議会委員の紹介で地域の9名の方が学習ボランティアとして協力してくださった。学習ボランティアの人数が確保できたために、教員と学習ボランティアが協力して、より丁寧に補習を行うことができた。児童も、個別に対応して下さる補習のボランティアの方に親しみをもち、学習を進めることができた。</p> <p>漢字検定では、中野北小学校が本校の副会場として受検できるようになった。学校運営協議会委員で申込み手続きや当日の監督者募集などを行うことができた。</p> <p>②PTAあいさつ見守り活動への参加者が増えてきた。学校安全ボランティア会議に保護者にも参加してもらい、あいさつや見守り活動について理解を深めることができた。</p>	<p>①来年度は、補習を必要とする児童に絞り、補習を行う。個別に指導して底上げを図ることを重点としたいので、地域学習ボランティアの人数をさらに増やし、より丁寧に児童の学習支援を行っていく。</p> <p>②登下校時のあいさつは、進んでできる児童が増えてきた。6年生や代表委員会のあいさつ運動とともに、大人のあいさつ見守り活動も引き続き行い、あいさつがさらに活発にできるように働きかけていく。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成26年度指定	宇津木台小学校	7回	①子どもたちの健全育成や円滑な学校運営のために、学校運営協議会(学校地域支援本部)としてできる具体的な方策の検討。 ②保護者や地域住民への啓蒙活動の在り方。	①学校支援本部が中心となり、ボランティアを募り、「放課後わくわく算数教室」やサタデースクール、漢字検定などを実施した。 ②サタデースクールでは、南極クラブや親子ドッジボール、親子着付け教室や星空シアター、クリスマスリース作りなど、親子で参加できる活動を数多く実施し、学校支援地域本部の活動状況の理解を深める機会を多く持った。	①サタデースクールに参加する親子が年々増えている。また、放課後わくわく算数教室にも多くの児童が参加し、活気溢れる活動になっている。漢字検定を年2回行い、本校の児童だけではなく、保護者や地域の方の受検の年々増えている。 ②南極クラブや異文化交流会、親子ドッジボール・着付け教室、グラウンドサッカーや星空シアター、クリスマスリース作りなど、多くの保護者が子どもたちと参加するようになり、地域運営学校の趣旨が浸透してきている。	①各種の活動に多くの先生方が参加してくれるようになり、子どもたちも楽しそうに生き生きと活動している。これからも先生方の参加をお願いしたいと考える。また、この活動を長く続けるには、後継者の発掘や育成が重要であるが、現状のところなかなか目処がたたないのが今後の懸念である。 ②新入生の保護者や新たに宇津木台小学校へ赴任されてきた教職員への普及・啓蒙活動も引き続き行っていく必要がある。
	式分方小学校	9回	①保護者・地域に対するコミュニティ・スクールのPRについて協議を行った。 ・運動会の飲み物販売 ②地域人材(ボランティア)の拡充について協議を行った。 ・夏休み体験講座「わくわくサマースクール」の講師に広く保護者・地域の方々を募集 ・校庭清掃など気軽に参加できるボランティアを募集 ③地域の小・中学校(青少対を含め)の連携について協議を行った。	①運動会で飲み物の販売を行う際、運営委員会のキャラクター「かっぱいこ」の缶バッジを付けて販売し、学校運営協議会をアピールした。 ②夏休み体験講座「わくわくスクール」19講座を開講した。運動会に向かって校庭の草取りの「ちょこっとボランティア」を募集し、実施した。 ③協議会会議にて、中学校の情報を提供してもらうなど、地域の状況を学んだ。中学校に「わくわくサマースクール」のボランティアの募集を行った。	①飲み物販売は好評で完売し、多くの保護者や地域の方々に学校運営協議会のアピールができた。 ②わくわくサマースクールは、猛暑を避けるため、8月中旬以降に19講座を行った。講師に地域の方々(高齢者も含め)や保護者が、参加希望が述べ800人、参加者が述べ500人となり、地域の人材の拡充に繋がっただけでなく、地域との交流の場となった。ちょこっとボランティアにも児童、保護者、地域の方々が参加し、協力し合うことができた。 ③わくわくサマースクールに中学生がボランティアとして参加した。	①協会だより「にぶっこみゆこみゆ」の定期的な発行とHPの充実を図るとともに、かっぱいこの活用を考えていく。 ②わくわくサマースクール・ちょこっとボランティアの活動を継続・拡充し、より地域に開かれた学校を目指す。 ③3月に中学校の学校運営協議会の会長を招き、講演していたが、地域の小・中学校にも声がけをして、交流予定であったが、新型コロナウイルスのため、中止となった。来年度には必ず実施したい。
	由井第三小学校	10回	①学校運営協議会のPR活動 ・学校便り、学校ホームページ及び学校説明会等を活用したPR方法について ②授業参観等への参観実施並びに児童の学力・体力向上 ・研究発表会への参加、学校運営協議会委員による授業参観の実施、校内授業研究への参加計画について ・マラソン週間や大縄跳び大会の実施について ・児童の状況に関する共通理解について ・海洋授業への協力体制について ③「夢大地の取組」の一層の充実 ・夢大地の取組への協力体制について	①学校ホームページにおいて夢大地の取組のコーナーを設定し、記事を多くアップし、広報活動に努めた。 ②八王子市教育委員会研究指定校としての研究発表会に参加した。学校運営協議会委員による授業参観を年2回実施し、日頃の授業の様子を参観した。また、校内授業研究においては授業参観だけでなく、研究協議会にも参加した。広くなった校庭を有効活用し、全校児童によるマラソン週間、大縄跳び大会を、継続して実施した。学校運営協議会予算を海洋授業の講師やスタッフへの謝金にあて、昨年度実施した「海洋教育パイオニアスクールブルグラム」と同様の授業を実施した。 ③畑作・稲作活動では、委員が講師として、苗の植え付け、除草、収穫まで指導している。3年生の社会科「地域調べ」や5年生の総合的な学習の時間「小比企の農業を応援しよう」では、委員が農家の仕事を紹介する授業を実施した。	①学校便り、学校ホームページ及び学校説明会等で広報・啓発活動を充実させることができた。後期学校評価自己評価保護者向けアンケートでは「夢大地の取組を知っている」について肯定意見が94.1%という結果となり、活動内容を、広く保護者や地域住民に周知することができ、その大切さも浸透し、協力体制も一層高まってきている。 ②学校運営協議会委員による授業参観や研究授業参加を通して、本校児童・教職員の実態を共有し、学校運営協議委員の意見を教職員の研修に生かすことができた。マラソン週間では広くて水はけのいい校庭を有効活用して、週3回を2週間実施し、児童の体力向上を図った。海洋教育パイオニアスクールプログラムでお世話になった大学教授をを引き続き招き、由井中学校と連携して、高い専門性を生かした授業を4～6年生で実施した。 ③副読本「ふるさと小比企・片倉 夢大地」を活用し、新しく本校に着任した教員でも地域の教育資源が分かり、夢大地の取組を理解し、本校独自の取組が継続、充実につながるようにした。その結果、4年生では、児童が自ら湯殿川沿いのゴミ拾いをしたり花の苗を植えたりするなど自分たちも地域の環境を守っていくと考えることができた。また、5年生では、地域の農家の方々と知り合いになり、地域の農業を支えるために自分たちができることを考えることができた。このように児童が自分たちの故郷である小比企・片倉町をより一層理解し、郷土愛が育まれるなど、未来を担う児童の育成が推進されつつある。	①本会予算を有効活用し、本会が学校と協働体であることを確実に周知していく。 ②教員の異動や地域支援者の動向に左右されない持続可能な取組にしていく。 ③本年度は地域の農家の方の力を借りてパッションフルーツの栽培に取り組んだ。新たな実践も加えながら、夢大地の取組を一層充実したものにしていく。
	横山中学校	9回	①校長の経営方針の承認、経営報告を基に質疑応答 ②教育課程・予算の承認 ③教職員の任用に関する意見聴取 ④青少対行事との連携 ⑤学校行事への参加 ⑥職員・生徒との懇談 ⑦学校保健委員会への参加 ⑧修学旅行、スキー教室の業者選定	①民生児童委員と連携した不登校生徒の対応 ②スキー教室の業者選定 ③教職員の任用に関する意見聴取 ④教職員・生徒との懇談	①民生児童委員の教育活動への参加 ②保護者に代わるスキー教室の業者選定に対しての第三者機関としての役割 ③学校運営協議会の教育活動への参加	①次年度はさらに学校運営協議会の役割を明確化する。 ②具体的な仕事分担を行う。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成26年度指定	川口中学校	6回	①学校と家庭、地域社会が連携した学校づくりについて ・評価部による学校評価アンケートの実施と結果検討(前期・後期) ・教養部による教養講座について(竹細工、囲碁、健康体操など) ・支援部によるフラワーサークルについて(毎学期) ②学校の様々な教育活動と生徒の実態に対して ・経営計画、行事、事業計画、働き方改革、小中一貫教育、いじめ対応、生活指導、進路指導、学習指導、不登校対策など	①体育祭における学校運営協議会表彰 ・体育祭において学校運営協議会会長賞を設け、学校運営協議会の委員が直接生徒に表彰状を渡す。 ②教養部フラワーサークルによる花植え ・校内環境整備と美化推進のために、生徒とともにプランターに花を植える。花植えは年3回(6月、12月、3月)実施する。	①学校評価アンケートを年2回実施し、学校運営を振り返るとともに、家庭と地域社会と連携して次年度の教育活動を検討することができた。 ②フラワーサークルを年3回実施し、生徒とともに美しい学校づくりに取り組むことができた。 ③学校の活動を広く地域に周知するとともに、生徒の実態や課題について意見交換を行い、情報共有を図ることができた。	①学校運営協議会のPRを行い、さらに多くの地域住民・保護者から活動を評価してもらえるようにしていくことが課題である。 ②川口中学校区の小中一貫教育を推進していくために、小学校や学童・児童館などから人材を登用し、地域が一体となった学校づくりを進めていく必要がある。 ③学校運営協議会委員の高齢化と任期の長期化に伴い、新しい人材、若い方々の協力をさらに得ることが課題である。
平成27年度指定	緑が丘小学校	10回	①学校運営協議会の主催のもと、放課後の「みどりっ子算数教室」の運営について検討を重ねた。 ②教職員との意見交換会、PTA等の学校組織との連携、学校運営協議会の周知について協議・検討を行った。	①学校運営協議会主催となって行う、算数の補習「みどりっ子算数教室」を実施している。 ②教員の働き方改革について、地域、保護者の理解が深まるように、教員の負担感の分析や、学校運営協議会として支援できることを検討した。また、PTA、放課後子ども教室、学校運営協議会の連携を図るために、合同連絡会を学期に1回、年3回行った。学校運営協議会広報誌「みどりの森」を学期に1回発行した。	①算数教室について、ボランティアの方が、容易に参加できるように、火曜日の放課後に設定した。延べ12回の算数教室を開催できた。指導者となるボランティアの確保にも努めた。学校運営協議会のメンバーに、元学校コーディネーターがいることで、地域との窓口となり、ボランティアを集めるとともに運営に大きく貢献できた。 ②学校の様子を知るために、学校公開をはじめ、校内研究授業の参観など充実を図ることができた。運動会の受付をはじめとして、学校行事を支援することで、教員の負担軽減に貢献できた。	①教育活動の一環として、より大きな教育効果を上げるため、さらに教員と協議を重ね、改善を図っていく。授業時数の関係を見ながら、校内研究との兼ね合いを考えていく。 ②学校行事への支援について、各委員の意欲が高く、引き続き学校への支援を継続していく。今後、委員の任期を見据えつつ、長く継続していけるように、メンバーの選出を考えていくことも課題である。
	長沼小学校	7回	①学校運営協議会の取組を保護者や地域の方々に広く知ってもらうために、情報発信等について協議を行った。(学校運営会便りの発行、学期1回) ②特に学力についての児童の分析をもとに、今、身に着きたい学力を支援するための体制づくりを考えた。 ③放課後の子どもたちの居場所、年度当初の保護者会(低学年)時の子どもたちの受け皿を検討した。 ④体験学習・漢字検定・地域活性カード等の検討。	①4、5、6年どの学年にも4～5名程度いるD層児童を対象とした放課後おもたか補習教室を毎週実施した。 ②3年生の児童に火曜日の放課後に、算数を中心とした補習授業を常時2名の地域ボランティアの方の協力で行った。 ③10月26日(土)に、日本漢字能力検定を主催した。 ④放課後子ども教室と連携し、週2回、放課後の子どもたちの居場所を確保した。 ⑤学校畑で、地域の農業従事者として、子どもたちに野菜栽培を教えた。 ⑥地域活性カード「IKU IKU DON DON カード」を作成し、地域の活動に子どもたちの参加を促した。	①3～6年生の学習支援を行った、参加している子どもたちは、一定の成果が上がり、学習に対する苦手意識軽減の一助となった。 ②漢字検定には、88名(欠席2名)の受検があった。 ③4月当初の保護者会での子どもの預かりは、好評で保護者から感謝の声が多く寄せられた。 ④学校畑で3年生・5年生・ひまわり学級(知的固定学級)が、大根を育て、天候不順で個々発育に差があったが、全員が収穫できた。	①学習支援の活動は、とても意味のあることだが、参加人数が少ないという課題がある。もっと宣伝をして、数多くの子どもたちを集めたい。 ②地域活性カード「IKU IKU DON DON カード」を年度途中から発行したが、まだまだ、子どもたちに浸透しているとは言えない。3月にたくさん地域活動に参加した児童を表彰しようとしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、かなわなかった。来年度は、もっと、子どもたちを地域に出したい。
	由木西小学校	11回	①地域運営学校としてのよさを生かした学校づくり 学校運営協議会全体として取り組むことと、各委員が分担して取り組むことの二重体制で豊かな活動を行ってきた。組織の分掌として、「全体会」「学力向上支援部」「自然体験活動支援部」「情報宣伝活動部」「郷土愛・地域支援部」「健康安全支援部」に分かれて活動を行い、毎月の協議会にて報告及び協議を行った。 ②地域と連携した教育の推進 学校選択制改定に伴う情報を共有し、本校のより良い在り方を協議した。	①学校運営協議会自然体験活動支援部の協力を得て、古代ハス池の整備活動を行ったり、学校林を整備し、自然体験学習の環境整備を行った。 ②保護者アンケートの結果、地域運営学校として地域と連携した教育について、91%の肯定的評価との報告があった。 ③学校運営協議会の協力を得ながら開催しているオープンキャンパスで、本校が研究指定校として取り組んできた「自尊心を育む教育の実現を目指して」についての研究のまとめを発表した。 ④道徳授業地区公開講座で、この地域にまつわる歴史や文化を研究している学校運営協議会委員による講義と意見交換会を行い、価値ある講座となった。	①本校の特色を支え、その良さを広く発信してきたことで、本校を選択する家庭が徐々に増えている。本校の価値を確かなものにすることができた。 ②オープンキャンパスにおける研究発表は、保護者や学校関係者だけでなく、多くの地域の方々が来校し、本校の教育に対する理解と協力を得ることができた。これらは学校運営協議会の力による大きな功績である。 ③地域との連携が強化され、町会との絆が深まり、行事の共同開催の計画が進行することになった。	①学校の経営計画を基に、学校運営協議会ではそれぞれの分野での研究をさらに深め、地域運営学校として特色ある教育を推進する。 ②地域との共同開催行事として、町会の集会所で、地域住民と学校が行うふれあい合唱団構想が具現化し、春のささやきコンサートを実施した。
高尾山学園	8回	①不登校特例校としての課題を明確にし、改善や対策についての協議を行った。 ②学校評価アンケートの結果を参考にし、保護者や子どもたちから学校が何を求められているかを検証し、具体的な施策の検討や助言を行った。	①年度当初に、学校運営協議会委員と教職員との全員面談を行い、教員が抱える課題や悩みなどに対する助言を行った。 ②保護者に対し、「学校運営協議会委員と話す会」を年3回実施し、保護者が抱える悩みなどへの相談や助言を行った。 ③就労支援団体との連携を継続し、卒業後の不登校対策を実施した。	①教員面談を行ったことで、学校や教員が抱える課題が明確となり、より具体的な助言などを行うことができた。 ②「学校運営協議会委員と話す会」を実施し、保護者が何に対して悩んでいるかが理解できたことにより、今後の学校運営に対し明確な助言が行うことができた。	八王子市においても、不登校の児童・生徒は増加の傾向にある。そのような現状の中で本校への期待も高くなっている。今後においても、本校が八王子市の不登校対策拠点校としての機能を果たせるよう学校と一体となって不登校対策の検討を図っていく。	

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成27年度指定	9回	<ul style="list-style-type: none"> ① 柗田中学校の教育活動(教育計画、生活指導、学習課題等)の情報提供 ② 柗田中学校の状況(生徒、教職員及び特別支援委員会)の情報提供 ③ 学校行事(体育祭・音楽祭)、学校公開、道徳授業地区公開講座の参観 ④ 補習(朝学習)、検定(数検・漢検・英検)の実施及び補佐 ⑤ 学校予算についての報告 ⑥ 修学旅行業者の選定のためのプレゼンテーションの参観 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の状況の報告 毎回の報告に加え、11月には各学年主任と養護教諭からこれまでの生徒の様子について報告した。また、6月には学校予算の状況について説明した。 ② 地域との連携 朝学習の実施では、生徒の質問に答える等の学習の補助を行った。また、「登校支援教室」と称して、教室に入れない不登校傾向の生徒の居場所づくりについても、地域人材を活用した。いずれも学校運営協議会のメンバーがそのコーディネートを行った。 ③ その他 9月と11月の数学検定を学校運営協議会主催で実施した。計32人が受検した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の状況について、教員から直接報告した点については好評であった。特に、養護教諭から保健室の生徒の利用状況や不登校傾向の生徒の実態を報告したことは、高い評価をいただいた。また、予算の状況についての説明も興味深く聞いていただいた。 ② 朝学習の補助にも毎回、地域の学生ボランティアが来てサポートをいただいた。昨年度は1年生のみが対象だったが、今年度は2年生も追加し、効果的に実施できた。また「登校支援教室」でも地域人材を活用し不登校傾向の生徒の居場所づくりを行い、生徒や教員に好評で大きな成果を得た。 ③ 数学検定は問題なく実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 今年度の取組や活動(学校からの報告・朝学習・登校支援教室・数学検定)は継続しつつも、以下の点を改善し、一層充実した内容で次年度も取り組む。 ・学校からの報告は、個人情報や守秘義務に留意した上で、可能な限り情報提供し、理解や協力を仰ぐ。 ・登校支援教室は、人数が増えた時の対応を工夫改善する。 ・数検だけでなく、英検、漢検を実施する際の地域人材のコーディネートをサポートする。 ② 今年度は天候や臨時休校によって、地域清掃が一度も実施できなかった。次年度はこれまで通り実施し、地域との交流を推進する。
平成28年度指定	13回	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力向上部会 ・夏休みパワーアップ教室…第五中学校とは近隣校としてさらに連携をとっていく。 ・放課後算数教室…中学年からの参加とし、習得問題を合格させる。 ・漢字検定…検定に挑戦する意義を理解し、目標を決めて努力する大切さを学ばせる。 ② 環境美化部会 ・花の苗植え活動…花の苗の確保が確実にできるようにする。年3回の活動をする。 ・環境美化活動…学期に1回の学校環境美化活動を見学とともに行う。芝生の管理をPTAと連携して共同事業にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力向上部会 ・夏休みパワーアップ教室…年齢の近い中学生から学ぶため、抵抗なく基礎学力の定着を図ることができる。 ・放課後算数教室…下の学年に戻って復習をするため、確実に基礎学力が身に付く。 ・漢字検定…漢字を習得し、合格して自己肯定感が上がる。 ② 環境美化部会 ・花の苗植え活動…地域の方と子どもの繋がりが深まり、花がある美しい街になる。 ・環境美化活動…学期に1回の学校環境美化活動を見学とともに行う。芝生の管理をPTAと連携して共同事業にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力向上部会 ・夏休みパワーアップ教室…第五中生徒から学び、児童も気軽に質疑応答ができていた。 ・放課後算数教室…3年生からの参加にしたり、低学年の基礎学力が身に付くようになってきた。 ・漢字検定…受検者が増加し、目標に向けて学習する児童が増えた。 ② 環境美化部会 ・花の苗植え活動…町会、商店会、水再生化等も参加し、参加者が増えた。 ・環境美化活動…普段、児童ができない高所の掃除ができた。芝生の管理をPTAの活動として位置付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力向上部会 ・夏休みパワーアップ教室…第五中生徒の参加をさらに増やして内容の充実に努める。 ・放課後算数教室…民生児童委員の方に担当してもらっているため、緊密な連携が必要である。 ・漢字検定…今後も、受検者の増加を目指すとともに、当日までの学習の在り方を検討していく必要がある。 ② 環境美化部会 ・花の苗植え活動…児童に活動の意義を定着させ、周りの人たちに支えていただいていることを理解させていく必要がある。 ・環境美化活動…今後も大掃除を保護者・地域とともにしていきたい。芝生の管理をPTAの活動として定着させていく。
	8回	<ul style="list-style-type: none"> ① 夏期講座 ② 持久走大会の計画 ③ 放課後算数教室の計画と運営 	<ul style="list-style-type: none"> ① 夏期講座 地域人材を活用し、7講座を開催することができた。学校運営協議会委員に各講座の担当を担ってもらい組織的に運営できた。また、二中の陸上部にも講座を開いてもらった。 ② 持久走大会 第4回持久走大会の計画と実施 ③ 放課後算数教室15回、夏季算数教室5回の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域や隣接中学校からの協力を得ることにより、行事そのものの定着化を促進した。小中連携の観点から、一層緊密な連携を図ることができた。 ② 持久走大会は縮小開催であったが、学校運営協議会、PTA、教員の協力体制は確立できた。 ③ 年20回の算数教室は、確実に児童の学力を底上げに貢献することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 行事として定着している。夏休みの行事として定着を図りたい。 ② 本年度は縮小開催であったが、次年度は従来通り、浅川河川敷での開催を目標にする。 ③ 地域ボランティアによる指導体制の確立はできている。参加児童に確実な学力をつける体制を強化する。
	5回	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和元年度の教育課程・学校経営方針に基づく教育活動の進捗状況の報告について ② 学校評価について ③ 令和2年度教育課程について ④ 学校運営協議会企画事業について 	<ul style="list-style-type: none"> ① 夏休みに実施する補習「中北サマースクール」への地域ボランティアの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「中北サマースクール」に学校運営協議会企画事業として謝金を確保したことにより、地域の学習ボランティアを活用して、全学年児童に補習を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習面のサポート体制を維持していく必要があり、来年度以降も学校運営協議会企画事業として、「中北サマースクール」に学習ボランティアを派遣していく。 ② 今年度は清水小学校学校運営協議会と共催の漢字検定を、受検者が増加したため来年度は本校独自で開催するように進めていく。
	9回	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校の教育活動について ・セーフティー教室 ・学校説明会 ・運動会及び音楽会 ・学校の取組 ・給食 ・委員会活動 ・道徳授業地区公開講座など ② 漢字検定の運営について ③ 放課後算数教室の運営について 	<ul style="list-style-type: none"> ① 様々な機会を通して学校の教育活動の実際の様子を見たことで、理解を深めることができた。また、話し合いに参加したことで、教職員との関係を深めることもできた。 ② 漢字検定の申込み活動から結果を知らせる活動を主体となって行った。 ③ 放課後算数教室の全運営を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 1学期にセーフティ教室を参観し、意見交換会にも参加することで、地域の状況も説明する機会となった。また、2学期に、道徳授業地区公開講座の授業を参観後、グループ討論会に参加した。 ② 漢字検定では、副会長2名を中心に実施のための準備ができた。その結果、本校児童、近隣中学生及び地域の方々合計206名が参加し、PTA等の25名のボランティアから協力を得ることができた。 ③ 放課後算数教室は、月3回から4回の実施ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 本年度の活動をさらに充実させるために、各委員の役割分担を明確にした。3年間で培ったノウハウと新しい試みを令和2年度に実施するための計画を立て活動していく。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成28年度指定	散田小学校	10回 ①読書量や漢字の定着率等を向上させるため、学校としての具体的な取組が提案され、保護者・地域とどのように協働していくかについて協議した。 ②本校との特色としての地域芸能・文化に関する学習活動における、持続可能な取組を行うための方策、「散田小レガシー」との関連などについて協議した。 ③災害の発生や不審者に対する、学校の安全確保の体制の見直しと、地域と連携した具体的な対応策について協議した。	①朝学習としての「散田タイム」の実施。保護者、地域ボランティアによる継続的な読み聞かせを週1回の実施。親子読書の実施。保護者、地域ボランティアによる学習支援の積極的な活用。 ②総合的な学習の時間「散田小太鼓発表会」「散田車人形公演」の実施をはじめ、琴、茶道などの体験学習の継続的な実施。 ③PTA、安全ボランティア、スクールガードリーダー、民生児童委員などと連携した、登下校の見守り、緊急時の協力要請。	①漢字の定着率に関する評価は、4段階の成果指標で平均3.8であり、漢字の定着率に向上が見られた。読書量については成果指標が平均3.6であり、読書活動の取組は定着したが、今後読書量のさらなる向上を図りたい。 ②各取組の関連や系統を意識して指導をした。下学年が上学年にあこがれ、目標とする様子がさらに見られるようになった。 ③今年度は、台風や大雨、学区での強盗事件など、緊急時の対応を実践する場面が多々あった。児童、保護者とも冷静な行動ができた。重大事故の発生がなかった。	①定着の差が大きい現状がある。定着が図れない児童に対して、「散田マイスタータイム」(補習)の実施や、ATの導入や地域の学習ボランティアを活用した個別指導の充実を図る。 ②児童や教員に負担がかからず、持続可能な形で、学びを地域に還元する取組を充実させていきたい。またキャリア教育との関連についても検討していく。 ③危機管理について、今後も研鑽を積み、対応力を向上させる。地域の安全を見守る人材が高齢化しており、活動の継承と人材の発掘が急務である。
	山田小学校	12回 ①学校経営上の様々な課題(教員の指導力、児童の学力、生活指導上の問題、校外活動等)や家庭・地域との連携について、協議を行った。 ②学校内の教育環境の整備について協議し、実施方法等を話し合った。	①毎月の定例会において学校から情報を受けるとともに、学校公開や学校行事に参加することで児童の実態を把握し、様々な角度から意見や助言をすることができた。 ②学校提案型予算を活用して、数十年手つかずだった池周辺の環境整備に取りかかった。地域の専門家の協力を得て、作業を進めている。	①児童が安心・安全な学校生活を送るために必要なことや地域社会で育むためにできることを、各委員で情報と認識を共有することができた。 ②学校内の活用できる教育環境を改めて見つめ直し、改善、整備へ向けての作業の緒に就くことができた。整備計画の大幅な遅れによって、年度内の完成は難しい状況にある。	①学校の取組状況と家庭・地域の連携について、情報共有したり共通理解を図ったりすることができた。より具体的な有効な関わり方が、今後の課題である。 ②池周辺の整備計画は、次年度まで持ち越すことになりそうである。隣接するスペース(かつて畑だった場所)を畑に再生する計画も立ち上がり、保護者や地域の協力者を得るなど実施へ向けて動き出している。
平成29年度指定	第一小学校	8回 ①年間行動目標を「学校支援活動の推進」とし、学校の応援団として保護者や地域住民が協力して「地域で育ち、地域に生きる子の育成」に向け学校運営協議会として協議を行った。 ②地域における学校の在り方として、今後の学校の姿について協議を行った。	①様々な外部団体を招聘し、体育的な内容や芸術的な内容について児童に触れ合う機会をつくった。 ②保護者同士の様々な不安や疑問に対して、学校管理外の内容については学校運営協議会が受け皿となることもあった。	①地域に根差す学校としての在り方を常に考え、さらに変化する社会に対応するための学校の在り方を議論することができた。 ②保護者の様々な要望や要請を広く聴くことができ、学校運営に生かすことができた。	①今後も昨年度までの取組を継続していきたい。 ②様々な災害等への対応についても学校運営協議会としての取組を密にしていきたい。 ③今後は小中連携としての取組を深めていく必要もある。
	いずみの森小中学校	9回 ①義務教育学校開校へ向けて、地域とともにある学校づくりを一層推進していく上での今後の取組についての協議を行った。 ②学校運営協議会の役割、活動内容についての協議を行った。 ・いずみの森協働本部のキックオフについて ・閉校式、校舎お別れ会の企画	①義務教育学校に向けた教育課程編成及び学校複合施設としての活動の企画・調整・運営についての在り方を検討した。 ②地域と協働・連携した教育活動・取組として、学校コーディネーターを中心に年間を通した平日の学習支援、学校公開日に防災スクールを実施した。また、漢検、英検、補習の運営に携わった。 ③いずみの森協働本部による企画・運営「いずみの森クラブ」の活動をスタートした。令和元年度は、自習スペース、蜂の生態研究、英会話教室、クリスマスコンサート、新春お笑いライブ、託児所(卒業式)などの事業を行った。 ④指導課主催の学校コーディネーター研修にて、学校運営協議会及びいずみの森協働本部の活動について事例紹介を行った。	①いずみの森協働本部の設立 事務局及び組織構築、学校コーディネーター増員、会計事務の明朗化 ②学校、学童保育所、保育園、町会、青少対、PTA、放課後子ども教室、等、それぞれの活動・取組を一覧できるコミュニティ・カレンダーの作成 地域が一体となってスケジュールを把握できるツールの開発と発信 ③学校HPに学校運営協議会、いずみの森協働本部のページを設置 議事録や事務局組織、規約等の情報を発信	①コミュニティ・スペースの運用、活用については、今後も協議を継続していく。 ②学校提案型予算に獲得した予算の活用にあたって、学校、学校運営協議会、いずみの森協働本部、青少対、おやじ会、PTAとの連携を深め、継続発展させられるような企画をする。 ③教員の参画、地域への広報活動の充実を図っていく。
	大和田小学校	10回 ①保護者・地域の協力を得ることで、より安定化した学校運営の実現を図るため、学校や学校運営協議会の取組の情報発信等について協議を行った。 ②児童アンケートや学力調査の結果をもとに本校の特徴を分析し、本校児童にとって身に付けるべき具体的な力を明確にし、その実現に向けて学校運営の在り方について協議を行った。	①年に1回学校運営協議会通信を発行し、情報発信を行っている。また、毎月配付される学校便りに学校運営協議会のコーナーを設け、情報を発信している。 ②「みんなで育てる大和田っ子」について協議し、学校の教育目標を具現化した提言を行った。 ③学校の体育館を使用したおやじの会主催の防災キャンプを支援した。	①学校運営協議会や地域運営学校としての認識が広がり、学校行事等へ興味をもつ保護者が増えた。 ②学校教育・家庭教育・社会教育の相互補完により、学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育に取り組むことができた。	①これまで行ってきた活動がようやく地域に根付き、学校運営協議会に対する地域や保護者の理解・協力が得られるようになってきた。引き続き、特色のある教育活動を学校と協力して実施していく。 ②小中連携を進めていくためには、青少対の理事会に参加するなど地域の児童・生徒の課題について意見交流してきた。ただ、十分な協議を行うことができなかったため、今後充実した会議にしていく必要がある。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題
平成29年度指定	7回	<p>①保護者・地域等の思いや願いを教育活動に反映させる。 ・保護者・地域を対象とした学校評価アンケート調査を年2回実施。 ・運動会、学校公開、授業参観等は毎回アンケートを実施。 ・アンケートの分析による課題把握、情報共有。今後の教育活動に反映。 ・学校運営協議会委員と教職員との交流の機会を拡大。 ②学校運営協議会の活動の様子を紹介する。 ・地域運営学校だよりの作成・配布。ホームページ等への掲載。 ・校舎1階の廊下に「地域コーナー」を設置。地域の方が写真や花々等を展示。 ③地域と連携した取組を深化・充実させる。 ・地域防災会議を毎年開催。発災時の迅速な対応を行う工夫。今年度も継続。 ・教育支援人材バンク、学校支援ボランティア等の活動に向けた人員確保。</p>	<p>①保護者会(4月)時の1年生児童の預かり ・放課後子ども教室開始前の1年生児童の預かり場の確保。 ・学校運営協議会委員によるお知らせ作成・配布と当日の児童の管理。 ②学校運営協議会の取組を地域運営学校便り(開催日翌日に発行)等で紹介。 ②校舎1階の廊下に地域コーナーを設置。 ・バックナンバーはファイルに保存。いつでも閲覧することが可能。 ③「道徳授業地区公開講座 講演会」の開催。 ・市内勤務の講師(臨床心理士・家族心理士)の招聘・確保。 ・「子育てに心理学が言えること」と題する講演会の実施。70名を超える参加者があった。 ③学校安全ボランティア会議の開催 ・児童の見守りを強化、情報交換による課題の共有。 ・ボランティア名簿の整理、新ボランティアの発掘。</p>	<p>①保護者の思い・願いを学校運営協議会が知り、迅速・適切に対応。 ・教職員に伝えることで校務改善、授業改善に反映。 ②保護者・地域住民等の学校への協力意識の高まり。 ・人材バンク・ボランティア活動の活性化、人材発掘。 ③地域全体で子どもを育てる意識の向上 ・通学路の安全点検(夏休み中) ・地域防災会議の情報共有、安全・防災意識の向上。</p>	<p>①開かれた学校作り 「地域の情報掲示板」の継続活用。地域人材の発掘、教育活動への参画。 ②積極的な情報提供・情報共有 ・ホームページを毎日更新。学年ごとの取組が分かるようにレイアウトを工夫。 ③地域連携の深まり・充実 ・地域防災会議、学校安全ボランティア会議を毎年開催。 ・地域行事への積極的な参加(教職員)</p>
	7回	<p>①学校経営方針の「きれいな学校」実現を目指し、学校運営協議会と学校が連携した取組を実現した。青少対の花ボランティアとの連携等、様々な意見が出された。 ②学校経営方針の「きたくなる学校」の実現を目指し、放課後子ども学習教室など、PTAとの連携を図り、児童の学力向上のための支援の協議を行った。 ③「はちっこだよりの」定期的な発行に向けた内容の協議を行った。</p>	<p>①緑化活動の方々と環境委員会が連携し、様々な花を植え、環境の美化を図った。 ②学習支援の方々による放課後子ども学習教室・学習支援ボランティアの方々による国語・算数の学習支援活動・清掃ボランティアなど。 ③「はちっこボランティア」による清掃活動ボランティア</p>	<p>①緑化活動の方々の支援により、校内美化の大切さについて児童の意識を高めることができた。また、学校運営協議会の方々と児童の協働作業により、地域とのかかわりについて児童が考えを深めることができた。 ②学校経営目標の実現に向けて、学校の取組に対する地域や保護者の方々の理解が深まった。また、はちっこボランティアの希望者が増加した。 ③支援ボランティアの方々が児童の支援を効果的に行う様子がみられるようになった。</p>	<p>①ダン小学校(アメリカコロラド州)との交流活動や「読み聞かせの会」・「元八がんぱりタイム」など、元八王子小学校の行事や取組と関連した事業を検討・実現する。 ②学習支援の形式や学習支援者をさらに拡大し、地域に根差した元八王子小学校として発展を目指す。 ③学校運営協議会の活動を充実させていく仕組みを検討する。</p>
	11回	<p>①学校評価をもとに、教育活動の成果と課題を分析し、取組の方向性について協議を行った。 ②児童アンケートや学力調査の結果をもとに、本校の特徴を分析し、本校の児童が身に付けるべき力を分析し、放課後補習の在り方について協議した。 ③学校運営協議会主催による、行事等での新たな取組について協議を行った。</p>	<p>①学校運営協議会主催の放課後補習教室「東小スタディ」を年間29回実施し、児童の学ぶ意欲と学力を目指した。 ②漢字検定を2回実施し、基礎学力の定着を目指した。 ③園芸ボランティアを行い、校内環境の整備を行った。 ④不登校問題に関して理解を深めるため、高尾山学園の視察を行った。 ⑤学期に1回広報誌「東の風だよりの」を発行し、取組を発信している。</p>	<p>①放課後補習教室の取組を通して、参加児童の自主的に学ぶ意欲が高まった。 ②漢字検定を継続的に行うことで、毎回チャレンジする児童もあり、目標をもって学習に取り組む姿勢が向上するとともに、漢字や語彙の定着につながった。 ③学校運営協議会の取組について、認識が広がり園芸ボランティアに関わっていただける方が増えた。また、校内の環境が良好に保たれている。</p>	<p>①本校にとっては、児童の基礎学力の定着・学力向上は重要な課題であるので、引き続き、放課後補習教室や漢字検定等を行い、向上を図る。 ②委員の方が、主体的に活動に関わっていただけ、地域や保護者の認識が徐々に高まっている。地域やおやじの会の行事の参加者の一層の増加につなげていく。 ③令和2年度に創立50周年を迎えるので、記念事業を通して、本校の地域に根差した学校としての在り方や今後の発展について、検討していく。</p>
	9回	<p>①子どもの学力向上の協議・推進 ②地域への周知・ボランティアへの協力体制への協議 ③運営目標や、活動内容協議、学校への状況報告</p>	<p>①学校の教育目標を踏まえて、基礎学力の向上を目標とした補充学習教室「かみっこ」の運営と、本校を会場としての漢字検定の実施 ②年度初めに各町会長へあいさつに回り、上壱分方小学校のアピールと、地域ボランティアの依頼、町会理事会への参加依頼をした。 ③校長・副校長から子どもや学校の様子の報告を行い協力体制を構築する。</p>	<p>①補充学習教室「かみっこ」への参加率が昨年度よりさらに高まり、学習取組の意欲向上が確認できた。漢字検定についても昨年より多くの児童や保護者が受験し、参加意欲は高まってきている。 ②校長、副校長、学校運営協議会会長、PTA会長の4名で、各町会長に挨拶ができ、町会を入口としたボランティアや地域へのアピールができた。 ③本校の現状や抱えている問題を伝え、それに対する学校の教育方針を明確に示したことにより、地域社会との協力体制を強化できた。</p>	<p>①補充学習教室「かみっこ」では昨年度より大幅に学習規律が定着してきたものの、学力向上を達成できてはいない。人材確保に力を入れつつ、かみっこの目標を達成できるよう工夫していく。漢字検定は引き続き実施の方向で進め、学力向上のためのかみっこを来年度も継続する。 ②今後とも引き続き地域の方を巻き込んで、学校へかかわっていただくために協議する。また、学校コーディネーターや支援者の確保と人材配置の協議をしていく。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度指定	城山小学校	6回	<p>①小中9年間を見据えた教育環境を構築するため中学校と連携した学校運営協議会を運営する。(小4回、小中合同3回協議会を開催する)</p> <p>②地域住民が学校行事に積極的に参加できるようPR活動を推進する。</p> <p>③担任や校長・副校長が、過大なクレームを持ち込む保護者ならびに問題行動児童の対応に苦慮している場合は、校長と連携しながら保護者と接触し充分傾聴した上で納得できる解決策を提案する。</p> <p>④新任の先生に地域の歴史や文化を知ってもらうため、「元八王子地区史跡・旧跡マップ」を作成し配布する。</p> <p>⑤学校環境の美化・整備を推進する。</p> <p>⑥子ども食堂の運営を支援する。</p>	<p>①中学校とつながった学校運営協議会として、小中学校を見る委員5人と小学校のみの委員5人がおり、学期1回の小中合同協議会を開催し課題や情報を共有しながら9年間を見据え、地域が学校を支えていく取組を進める。</p> <p>②学校公開行事・サタデースクールなどの対応</p> <p>・運動会や学習発表会、学校公開の授業など、地域の協力を得て学校運営協議会でもチラシを町会・自治会に配布し、地域の方の参加を呼びかける。</p> <p>・年に8回計画している土曜開催のサタデースクールを、PTAと連携しつつ地域の協力を得て、ホテル観賞や防災訓練など学校運営協議会の組織活動として進める。</p> <p>③校長、副校長、主管教諭、子ども家庭支援センター職員、学校運営協議会会長、地域関係者で「学校サポートチーム」を立ち上げ、情報を共有しながら必要に応じて対応策を実施する。</p> <p>④地域の史跡・旧跡の写真を撮影し、地図に貼り付けて、分かりやすいマップを作成する。</p> <p>⑤学校田を整備し、田植えや稲刈りの体験ができるよう地域の農家から苗を調達する。</p> <p>⑥地域の「子ども食堂」を町会・地域住民と連携し、月1回継続して開催できるよう積極的に支援する。</p>	<p>①協議会を7回開催し小学校と中学校のそれぞれの課題や情報を共有することができた。</p> <p>②学校行事のチラシを地域に配布するタイミングを早めにしたリロコミによるPRもしたため昨年度より多くの住民が参加した。</p> <p>③担任、生活指導主任、校長、副校長が情報を共有し連携して児童・保護者と対応した結果、連絡が取れない不登校児童は皆無で、学校運営協議会として保護者の相談に対応する場面はなかった。</p> <p>④元八王子地区史跡・旧跡マップを新任の先生に配布したところ、地域の歴史や文化に興味を持っていただき、児童の地域学習に役立てることができた。</p> <p>⑤校内の環境整備の面で、学校田の除草・収穫作業や花壇の整備など、PTAや老人会、地域と連携した取組が推進され、円滑な支援ができた。</p> <p>⑥子ども食堂の参加者は月平均100人と予想以上に盛況であった。</p>	<p>①中学校の学校運営協議会と積極的に意見を交換し、連携を深めることで、相互の協力体制を構築する。また、委員の世代交代を進める。</p> <p>②学校行事のチラシを開催日の1か月前に配布するとともに、ロコミによるPRを積極的に行う。</p> <p>③学校側と連携しながら、保護者会に学校運営協議会委員も出席し、顔を知ってもらった上で、保護者のクレームにも対応できることをPRする。</p> <p>④今後、石造物や天然記念物のマップを作成し、ホームページにも掲載する。</p> <p>⑤学校田や花壇の整備を継続して実施する。</p> <p>⑥子ども食堂の運営スタッフが一部の人に固定化しているため、新スタッフを増強する。</p>
	横川小学校	11回	<p>①地域や保護者との連携の在り方</p> <p>②学習支援の在り方</p> <p>③地域防災体制の組織の在り方</p> <p>④広報活動の在り方</p>	<p>①PTAと連携した漢字検定の実施。</p> <p>②PTAと連携した英語検定の実施。</p> <p>③キャリア教育、学習支援における地域人材の活用(ボランティア登録制度)</p> <p>④小中合同引取り訓練への地域の参加</p> <p>⑤地域運営学校便りの発行(年間4回)</p> <p>⑥中学校でのいじめ防止授業の実施</p> <p>⑦小学校における総合的な学習の時間の報償費</p>	<p>①PTAと連携し漢字検定を年間3回実施した。受検者数84名。</p> <p>②PTAと連携した英語検定を年間3回実施した。受検者数59名。</p> <p>③キャリア教育、学習支援における地域人材の活用により、1年生総合的な学習での講師を地域の方に担当していただいた。</p> <p>④小中合同引取り訓練への地域の参加</p> <p>⑤地域運営学校便りの発行(年間4回)により学校校運営協議会の活動の周知ができた。</p> <p>⑥弁護士によるいじめ防止授業の実施。</p> <p>⑦小学校6年「家を作ろう」の指導と支援</p>	<p>①PTAと連携を図り、引き続き漢字検定・英語検定を実施して、小学校の英語の教科化にも対応していく。</p> <p>②進路指導部と連携をしながら地域人材の活用も引き続きしていく。</p> <p>③地域防災の視点での活動の推進をしていく。</p> <p>学校運営協議会に対する理解を深めていくことが課題である。今年度の活動をふまえ、「持続可能」「より良い地域創り・学校創り」という視点に立ち、何を誰とどのように連携し活動推進していくかを検討していくことが課題である。</p>
	恩方第一小学校	10回	<p>①学校の学力向上施策とボランティアの活用方法について、より効率的な運営となるよう協議した。</p> <p>②学校運営協議会内に新たに部会を設け、それぞれの部会ごとに課題を整理した。その課題をもとに取組などについて協議した。</p>	<p>①学校運営協議会会長が、学校コーディネーターとなり、学校と地域をつなぐ橋渡しを行う。</p> <p>②学校運営協議会として、学習ボランティアの募集を行った。</p> <p>③学校の課題に応じて、対応する組織を立ち上げた。</p>	<p>①学習ボランティアの活動が定着し、日常化することで児童の学習意欲が高まっている。</p> <p>②地域の方と児童との距離感が縮まり、日頃学校外で出会ったときもあいさつができるようになってきた。</p> <p>③学習支援部会がボランティアのマッチングなどを行った。</p> <p>④懸案事項であった広報第1号を発行することができた。</p>	<p>①放課後学習の取組方法の変更があるが、学校の学力向上担当教師と連携し、ボランティアのマッチングに努める。</p> <p>②放課後子ども教室での学習教室の開催なども視野に入れ、よりボランティアの活動範囲を広げていきたい。</p> <p>②安全ボランティアの皆さんが高齢化しているため、新規のボランティアの募集を積極的に行っていく。</p>
	恩方第二小学校	10回	<p>①7月14日の上恩方夏祭りが地域を挙げての祭りであるため、地域として前例がなく、8町会の町会長に何度も実行委員会に来ていただき意見を伺いながら、学校運営協議会委員全員で手探りの状態であった。学校運営協議会会長の推進力と消防団やタヤけ小やけふれあいの里等の全面的な支援の結果、300人を超す参加者の夏祭りを実施することができた。</p> <p>②台風19号の豪雨災害により、恩方第二小学校は恩方第一小に間借りとなった。しかし、子どもたちが疲弊するのを目の当たりにして、学校運営協議会とPTAが要請し、12月にはマイクロバスで恩方第二小復帰を果たした。</p>	<p>①6・7月の長雨により、特に1階校舎の床が水浸しになるほどの湿気で、カビだらけになってしまった。学校運営協議会で報告したところ、委員の一人が裏山の杉や竹が密集し、風が通らないことも原因の一つと話された。その場で竹の伐採の作業案が決まり、1月と2月に作業を入れた。視覚室の屋根に桜の枝が伸び、台風・大雪での屋根破損が心配されていたが、承認を得られ桜の剪定が決まった。作業は3月に終了。</p> <p>②八王子市教育委員会研究指定校2年次の研究発表会が、台風と大雪のため2回延期されたが、当日は会長や委員の出席を得て無事挙行できた。</p>	<p>①1学期の学校運営協議会は5月からは上恩方夏祭りの打ち合わせに多くの時間を費やす結果となったが、全町会が参加し、町治連の会長や他の学校運営協議会とも連絡を取り合い、盛大な夏祭りが開催できた。</p> <p>②台風災害により間借りの状態が長く続き、いざというとき子どもたちを守るのが学校運営協議会と話し合い、保護者説明会への参加、被災地の救援等様々に動いた。恩方第二小に戻れてからは、子どもたちを励ますようと、餅つき会を盛り立てたり、お帰りのないコンサートを企画した。</p> <p>③5名の協力を得て竹の除伐作業が予定通り行われた。</p>	<p>①2月と3月の2か月をかけて、恩方第二小学校学校運営協議会の次年度計画を練っていく予定だったが、新型コロナウイルスの蔓延防止のための休校によって3月の定例会が中止となり、決まり切っていない状態で新年度を迎えることになってしまった。委員は2年目で入れ替わりも少ないことから、まずは体制づくりに着手したい。</p> <p>②今年度教員との懇談会を急遽企画したが、比較的有意義なものとなった。教員やPTAとの懇談を深め、意思疎通を図りながら、子どものための学校運営協議会を目指していきたい。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度指定	元木小学校	9回	<p>①学校の抱える課題に対する共通理解を深めるため、地域の教育事情について意見交換を行った。</p> <p>②元木小放課後子ども教室について、順調な運営が継続している。入会の呼びかけ方法や手続き時期について協議を行った。学校運営協議会開催時に放課後子ども教室の活動状況を必ず報告している。</p> <p>③NPO法人「小津倶楽部」との連携による林業体験学習を実施した。</p> <p>④令和元年度学校関係者評価(保護者)の結果について協議を行い、今後の方針に関してまとめた。(7月・12月実施)</p> <p>⑤学校提案型予算について協議をし、本校の卒業生である羽生善治氏に関する取組を行うことを市へ提案した。</p> <p>⑥漢字検定の実施に向けて、実施の時期や対象、実施方法について協議を行い、2月に実施することができた。</p> <p>⑦学校運営協議会企画事業として、本校卒業生 中出晶子氏をお迎えし、道徳授業地区公開講座においてご講演をいただいた。</p>	<p>①小津倶楽部との連携を図り、本校3年生児童への林業体験学習(のぎりをを使ったコースターづくり・ブンブンごまづくり)を実施した。</p> <p>②本校児童対象の漢字検定の実施(令和元年度 4~10級 計86名受検)</p> <p>③放課後子ども教室の運営(毎週水・金曜日実施)</p>	<p>①上記「協議事項②③⑤⑥」および「特色ある取組①」と同じ。</p> <p>②上記「協議事項⑦」を含め、学校運営協議会での活動が元木小と地域・保護者との良好な関係を維持・構築するうえで大きな礎になっている。</p>	<p>①小津倶楽部との連携を図り、元木小児童が毎年度参加する形の林業体験学習の在り方を模索する。</p> <p>②漢字検定に関して、受検受け入れ級や受検対象について今後どのようにしていくかを検討していく。</p> <p>③元木小のいじめ防止及び秩序ある学級・授業づくりを支えることができる活動を模索する。</p>
	檜原小学校	10回	<p>①学校経営方針の具現化に向け、地域の自然や文化財の有効活用を検討するとともに、学校行事や各学年の教育活動における地域人材の活用について協議した。</p> <p>②道徳授業地区公開講座のテーマや講師の検討。また、当日の授業及び協議会の在り方について協議した。</p>	<p>①環境整備支援:校内清掃・ベルマーク(学年PTA)、畑作業・ハピネスガーデン土作り</p> <p>②安全支援:登下校の見守り(安全ボランティア)、あいさつ運動、馬出し、地域防災訓練</p> <p>③行事運営支援:入学式・卒業式の来賓対応、運動会でのテント設置と準備片付け</p> <p>④読書活動支援:図書館の整備・朝の読み聞かせ(図書ボラ・読み聞かせボラ)</p> <p>⑤学習支援:学習支援、授業支援(昔遊び、蚕の飼育、そろばん等)</p> <p>⑥ゲスト講師の紹介(道徳授業地区公開講座 等)</p> <p>⑦漢字検定(PTAボランティア)</p> <p>⑧体験学習支援:パパサンズイベント(パパサンズ・PTA)、自転車大会</p>	<p>①関わり合った方々との連携の中で思いやりの心、郷土愛や思いやりの心の育成等、道徳道徳教育の充実を進めてきた。地域の人、物、自然の繋がりを知り、学ぶ楽しさや学ぶ意味を知ることができ、学習意欲の向上が図られた。</p> <p>②学校農園の充実を図り、学校給食に食材を提供できるようにした。児童が種まき、水やり、雑草むしり等を行い、地域人材を学校運営協議会が手配し、畑の管理等を行っている。</p> <p>③地域運営学校として、地域人材を積極的に活用し、日本の伝統織物や昔遊び体験を充実させることができた。体験を通し、学びを深めるとともに、様々な交流活動を通し、主体的に社会とかかわろうとする様子など、児童の良き変容が見られ、学校評価の保護者アンケートからは、「地域人材や外部関係機関と連携した教育活動に効果を感じられた」という肯定的な回答数が上昇した。</p>	<p>①オリンピック・パラリンピック教育推進を図るために、スポーツ選手による指導を充実させる。</p> <p>②環境教育を推進を図るために、地域人材を活用した養蚕体験や校内における農業体験を充実させる。</p> <p>③国際理解教育の推進に向けて、海外留学生を招聘し、文化交流活動を実施する。</p> <p>④地域運営学校として、地域人材を積極的に活用し、日本の伝統織物や昔遊び体験を充実させる。</p>
	由井第二小学校	7回	<p>①漢字検定の取組について</p> <p>②放課後子ども教室の取組について</p>	<p>①漢字検定を年2回実施した。</p> <p>②放課後子ども教室の実施回数を増やした。</p>	<p>①漢字検定を、運営委員のサポートにより、集金、人員の確保、当日の準備・運営と、スムーズに行うことができた。児童のやる気を引き出し、参加者が増えてきた。</p> <p>②当初週1回の実施だったが、2学期から週2回に増やすとともに、保護者会がある日は特別に実施するなど、放課後の児童の遊び場を確保し、保護者の負担も減らしていくようにできた。</p>	<p>①令和2年度も年2回の漢字検定を実施する。</p> <p>②令和2年度は、毎日放課後子ども教室を実施する。雨天時の活動場所と活動形態について、さらに工夫が必要である。</p>
	片倉台小学校	8回	<p>①学校・地域・保護者の三者の協働体制の下、地域に開かれた教育課程の編成及び充実した教育活動を行う。</p> <p>・学習活動の充実を目指した取組を中心に、学校・地域・保護者の協働体制のもと行う教育活動の推進について</p> <p>・防災、防犯教育の充実を目指した取組を中心に、学校・地域・保護者の協働体制のもと行う教育活動の推進について</p> <p>・児童が安心して、学校や地域で過ごすことができるように学校・地域・保護者の協働体制をどのように強化していくかについて</p>	<p>①学校の特別活動での取組である「縦割り班活動」で行っている「花いっぱい栽培活動」に、学校運営協議会を中心とした地域ボランティアの支援を得て、活動を行った。花を中心に、学校運営協議会の予算を活用した。</p> <p>②新規設置の予算を有効活用して、算数の習熟度指導の学習ボランティアの導入を決め、学校運営協議会の推薦による地域人材の活用を図った。</p>	<p>①地域の自治組織や地域の学習協力者との連携をより確かなものにするこで、教育活動をこれまで以上に円滑に進めることができた。</p> <p>②保護者・地域、関係諸機関の協力を得て、教育活動の取組内容を充実させることができた。</p> <p>③地域運営学校の周知により地域の目を学校に向けて、ボランティアの人材を発掘し、より活用することができた。</p> <p>④教職員の意識改革が図れ、地域と学校の協働体制の強化が図れた。しかし、教員の地域行事への参加が不十分なため、声かけ等を通し、地域と一体となった学校運営に努めたい。</p>	<p>①今年度の実績を基に、学校・家庭・地域の連携の在り方をさらに工夫し、強固な協力体制の下、児童の健全育成に資する組織としていく。</p> <p>②地域の特性をこれまで以上に明確にし、教育活動の中に生かすことができる資産として位置付け、より積極的な活用を図っていくことを目指す。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度指定	由木中央小学校	5回	<p>①学校環境整備のため、園芸ボランティアの活動を支援するための具体的な方策等について協議を行った。</p> <p>②言語能力向上の一助を担うため、図書ボランティア活動を支援するための具体的な方策等について協議を行った。</p> <p>③学校教育の内容(学校評価を基盤)について協議を行った。オリパラ教育について、協力していく可能性を協議した。</p> <p>④放課後子ども教室の開設の可能性について情報収集・検討を行った。</p>	<p>①園芸ボランティア活動支援 引き続きガーデニングに詳しい保護者の方の協力を得て、月に1回、花壇の整備を行ってきた。大型プランターの設置や、学校だよりへボランティア募集の記事の掲載等を行った。</p> <p>②図書ボランティア活動支援 詩の暗唱の取組の支援として、学校運営協議会と図書ボランティア、保護者、地域が連携して児童の暗唱チェックを行ってきた。また、読み聞かせの取組は、読書タイムを利用して活動を展開した。</p> <p>③由木地区体力づくりのまとめ役である委員の方を中心に、ポッチャを紹介する活動を4年生の総合的な学習の時間に行った。</p>	<p>①学校教育活動の場を情操教育の面から豊かにし、由木中央小学校前バス停を利用する地域の方々にも憩いの花壇として地域の財産として親しまれた。</p> <p>②学校教育・家庭教育・社会教育の相互補完により、言語活動の充実を図る読書活動が活性化し、全国学力調査でも高い値を残すことができた。</p> <p>③次年度も引き続きオリパラ教育を、地域の活動と連携させることができた。</p>	<p>継続的な学校運営協議会の活動が積み重なり、独自の課題意識をもって、放課後子ども教室の運営について考え、主体的な活動へとつながってきている。</p> <p>さらなる運営基盤づくりに向けて、PTAとのボランティア活動と連携し、学校の教育活動とリンクを図るような、学校コーディネーターの活動が期待される。学校だよりへの紹介などや、ボランティア活動により地域や保護者の理解・協力が得られるようになってきた。次年度は学校コーディネーターをもう一名加え、学校運営協議会の活動の充実を図る取組を実施していく。</p>
	由木東小学校	6回	<p>①保幼小中連携について</p> <p>②環境美化・行事について</p> <p>③その他・情報交換について</p> <p>④授業参観後の協議会開催について</p>	<p>①地域の幼稚園との交流では、緑が丘幼稚園園児を学芸会に招待し、2年生の劇の練習場面を参観し、第5学年児童が校内案内を担当した。第6学年の動物ガイドでは、保護者・地域の方に加え、武蔵野幼稚園園児とその家族を多摩動物公園に招待し、ガイドをした。中学校との交流では、青少対と協力して部活体験を実施した。また卒業生がリトルティーチャーとして夏季休業中の補習教室の手伝いを行った。</p> <p>②6月23日のスポーツフェスティバルの後に校内清掃活動を実施した。3月の地域清掃活動はコロナウイルス対策で中止した。行事については、新1年生とその保護者を対象に「学校探検」、第4学年を対象に「学校に泊まる」、全学年対象の「スポーツフェスティバル」「あおぎり祭」を実施した。</p> <p>③放課後子ども教室を週2回実施した。毎週金曜日は地域在住の日本棋院の方を招いて囲碁教室を開いた。低学年の参加が増え、今後が楽しみである。情報交換では、昨年度に引き続き、企業の目線からのライフワークバランスのあり方、いじめ対策の取組、学力や家庭での学習習慣等について議論した。</p> <p>④委員が授業を参観し、本校の児童の実態について意見交換を実施した。1月24日の八王子市教育委員会指定の研究発表会においても授業参観をお願いし、その後の学校運営協議会で御意見をいただいた。</p>	<p>①「幼から小へ」「小から中へ」のスムーズな連携を目指すための効果的な取組について議論できた。</p> <p>②おやじ会の積極的な活動のおかげで、一つ一つの行事がダイナミックに実施された。</p> <p>③放課後子ども教室のあり方・学童との共存について幅広い議論ができるようになった。漢字検定も軌道に乗り、受検者が増えている。</p> <p>④本校の児童の授業態度が良いこと、教員が教材研究を十分できていることをほめていただき自信となった。保護者の参観中の私語について共通理解できた。引き続き、教員は時間をきちんと管理することが大切だと確認した。</p>	<p>学校運営協議会のメンバーが、大学教授・中学校長・幼稚園長・地域の町会長・青少対委員長や役員・一般企業の社員等となっているため、異業種間の情報交換や学識経験者の意見吸収、連携がしやすい。異業種の方からの指導・助言は教職員の視野の広がりにつながるのでもありがたいことである。また、青少対や町会などの地域と連携した行事ができる。</p> <p>学校運営協議会のメッセージを在校生の保護者へさらにアピールしていくことが課題である。</p>
	鹿島小学校	6回	<p>①特色ある教育活動 ・国際交流や国際理解学習を含むコミュニケーション能力の育成について地域人材の確保や組織的に経営していくための体制について ・なかよし班活動を中心とした生産活動について、地域の協力を継続して得られる方法について、またその活動を活性化していくための手立てについて</p> <p>②あいさつ運動 ・三校と地域の青少年対策委員会が協働して実施するための方策と地域全体への啓発について</p>	<p>①コミュニケーション能力の育成 ・東京都国際コンシェルジュの協力を得て、国際交流(オーストラリアと直接交流)の実施。 ・大学等と協力して、留学生による国際理解学習の実施。 ・ことばの学習(俳句や短歌の作成)月に1回全クラスの代表(3,4名)が発表</p> <p>②縦割り班活動による生産活動。 ・地域の方の協力を得ながら取り組んでいる。</p> <p>③3校合同の取組として、あいさつの推進。</p>	<p>①コミュニケーション能力の育成 ・東京都国際コンシェルジュの協力を得て、国際交流(オーストラリアとの直接交流)を5回実施。クリスマスカードの交換なども実施できた。</p> <p>・大学等と協力して、留学生による国際理解学習を年に3回実施。 ・俳句、短歌に年間を通じて取り組んだ。その成果が、様々な大会での賞につながった。「お〜いお茶新俳句大賞」入選、「NHK短歌大会ジュニアの部」学校優秀賞・ジュニア大賞他多数入選</p> <p>②地域の方の協力を得て、縦割り班でサツマイモを育て、収穫し、年間を通じて活動するとともに、互いを認め合う気持ちを育成した。</p> <p>③3校合同の取組として、あいさつを推進した。「鹿島・松が谷 あいさついっぱい歌」を作成し、様々な機会に歌うことで普及に努めた。</p>	<p>①コミュニケーション能力の育成は今後も特色ある取組として継続していく。時期や費用の問題はあるが、子どもたちの英語に対する意欲向上には効果がある。また、日常的に俳句や短歌に触れる活動は継続していく。</p> <p>②生産活動は地域の方に頼るところが大きいので、継続できるようにさらに協力を求めていく。人材確保が課題である。</p> <p>③3校合同の取組は、学校や学年によって取り組み方に差がある。誰もできるあいさつ運動を展開していく。また、あいさつ歌をさらに広めていく。</p>
	松が谷小学校	6回	<p>①あいさつが、学校・地域で響くようにできる手立てを行う。</p> <p>②一人一人の児童が生き生きと授業に取り組むように支援する。</p>	<p>①全校から「あいさつ標語」を募集し、選定した。選ばれた標語を使って看板を作成し、地域のいろいろな場所に掲示した。また、3校合同で「鹿島・松が谷あいさついっぱい歌」を作詞・作曲し、CDを作成した。</p> <p>②低学年からの英語活動を回数多く実施し、学校全体で英語活動に取り組む体制を整えた。</p> <p>③中央大学と連携をし、高学年を対象としたプログラミング教育を実施した。</p>	<p>①学校内だけでなく、地域の方にもあいさつ運動を活発にしていることを示して、あいさつの輪が広がるようになってきた。</p> <p>②低学年児童が英語活動を楽しみにするだけでなく、外国にも興味・関心をもつようになった。</p> <p>③令和2年度から、完全実施されるプログラミング教育の指導について、見通しをもつことができた。</p>	<p>①次年度も継続してだけでなく、小中一貫校とも協力しながら新しい取組を始めていきたい。</p> <p>②昨年度作成した「鹿島・松が谷あいさついっぱい歌」を学校や地域に浸透させていく。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度指定	上柚木小学校	6回	<p>①保護者・地域の協力を得ることで、より安定化した学校運営の実現を図ることができた。漢字検定など学力向上の観点について協議を行った。</p> <p>②保護者アンケート及び児童アンケートや学力調査の結果をもとに本校の特徴を分析し、本校児童にとって身に付けるべき具体的な力を明確にし、その実現に向けて学校運営協議会としてできることを協議した。</p>	<p>①年間2回の漢字検定を実施した。受検者数、合格者数ともに増加し、検定を行うことで、児童の学習意欲の喚起につながっていることが分かった。</p> <p>②学力調査の結果を受けて、10月より学校運営協議会主催の放課後学習教室を実施することができた。保護者のボランティアを募り、高学年を中心に取組み、成果を上げつつある。</p>	<p>①学校運営協議会や地域運営学校としての認識が広がり、学校運営に対する保護者、地域の理解が進み、学校運営に協力、賛同してくれる方が増加した。</p> <p>②放課後学習教室を実施するうえで、学校運営協議会委員が中心となって活動した。学校教育・家庭教育の相互補完により、学校・家庭・地域が一体となって児童の教育に取り組むことができた。</p>	<p>昨年度から始まった放課後学習教室の運営を高学年のみならず中学年にも広げ、学習の基礎基本の定着と学びの習慣化を図れるようにする。そのために学校運営協議会に対する地域や保護者の理解・協力が得られるよう、その体制を継続していくための取組を実施していく。</p>
	鎌水小学校	9回	<p>①放課後子ども教室および学習支援の充実について</p> <p>②学校支援基金(ファンド)の設立について</p> <p>③緑あふれる街づくりについて</p> <p>④児童の通学時の安全確保について</p> <p>⑤地域運営学校としての周知について</p>	<p>①放課後子ども教室の充実 放課後子ども教室およびスタサポ(放課後補習教室)での学習支援を充実させた。</p> <p>②学校支援基金(ファンド)「やりみずっ子基金」の拡大 学校運営協議会の知名度拡大と活動の理解を図るとともに、学校支援活動資金を得るために、小中の運動会・体育祭で飲み物販売を行った。</p> <p>③緑あふれる学校づくり やりみず会(PTA)お花係のボランティア募集増員を図り、小中学校の学校花壇やみどり広場の整備を行った。</p> <p>④児童の安全確保のため、通学路の夏草刈り、落ち葉掃き、融雪剤散布等を行った。</p> <p>⑤鎌水中学校学校運営協議会とともに、広報活動を一本化し、学習支援部や安全環境美化部の具体的な活動の様子や成果などを「学校運営協議会通信やりみず」にまとめて発行した。</p>	<p>①運動会での飲み物販売や広報誌「やりみず」を通して学校運営協議会に対する認識がより広まった。</p> <p>②学習支援部が放課後子ども教室での補習教室スタッフを募集増員し、学習支援態勢の強化が図られた。</p> <p>③安全環境美化部が季節ごとに夏草刈り、落ち葉清掃、融雪剤散布等の通学路整備を行い、児童の安全確保が図られた。</p>	<p>小中合同学校運営協議会だけではなく、鎌水小学校単独としても活動を進めることができた。メンバーの重なりもなくなったことで、合計のメンバー数を増やし地域全体の活動をより発展させること、小中それぞれの課題に対応していくことができるようになってきた。今後も合同協議会と小中別協議会を効率よく開催しながら、より充実した地域運営学校の活動を推進していきたい</p>
	第五中学校	10回	<p>①子どもたちを取り巻く環境や課題について共通認識を図り、子どもたちのより良い成長を願い、学校・地域・家庭が相互に連携を図り取り組めることについて協議した。</p> <p>②学校運営協議会が主体的に学校教育活動を把握し、学校経営への支援を図れるよう協議した。</p>	<p>①学校運営協議会委員と教職員が協議する場を2回設け、「めざす生徒像」「生徒を取り巻く課題」及び、学校評価アンケート結果に基いた意見交換を充実させた。また、年度末には学校の自己評価に対して学校関係者評価を実施した。</p> <p>②学校運営協議会委員・学校コーディネーターが中心となり「五中応援団」組織を運営し、教育活動への支援を様々な場面で行った。特に補充的な学習支援として「放課後学習会」を運営した。</p>	<p>①学校運営協議会委員と教職員との顔の見える関係づくりを進めるとともに、教育活動を客観的に見つけ具体的な改善策を考えることができた。</p> <p>②新体制の「放課後学習会」が定着し、参加生徒の増加、大学生ボランティアや教職員の協力など、軌道にのせることができた。</p>	<p>①地域小学校学校運営協議会との連携、地域との協働をさらに充実させ、子ども達の成長のために具体的な活動として定着させる。</p> <p>②学校運営協議会学校支援部(学校コーディネーター)が中心となる組織「五中応援団」の組織的な運営の充実を図る。</p>
	第七中学校	5回	<p>①学校運営協議会の取組内容及び第七中学校との協議の在り方について協議した。</p> <p>②上記の取組や協働を行うための組織及び体制について協議した。</p> <p>③令和2年度八王子市立第七中学校の人事に関して意見を述べた。</p> <p>④令和2年度教育課程を協議し承認した。</p> <p>⑤令和2年度八王子市立第七中学校開校60周年記念行事の支援について協議した。</p>	<p>①道徳授業地区公開講座で講師を招き、講演会を実施した。</p> <p>②令和2年度八王子市立第七中学校開校60周年記念行事の組織を構築した。</p>	<p>①八王子ダルクに講師を依頼した。講師自身の薬物を乱用した経験を踏まえた講演を通じて生徒の自律心を高めることができた。</p> <p>②令和2年度八王子市立第七中学校開校60周年記念行事実施に向けて開校60周年記念事業実行委員会が発足し、事務局、総務部、記念式典部、記念誌部、財務部の5部で確実に準備が進められている。</p>	<p>①人事について意見することで一層の教育活動の充実を図る。</p> <p>②経営計画、教育課程を承認することは地域の考えを経営計画に反映させる。</p> <p>③地域の人材、環境を生かし切れていない。地域の強みを生かすことが課題である。</p>

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度指定	甲ノ原中学校	6回	①「確かな学力の定着と向上」に向けての支援について ②円滑な図書室運営に向けての支援について ③「地域に貢献する甲中生」を育成するための支援について	①学習ボランティアによる学習支援 ・数学の授業を中心に学習ボランティアによる授業内での支援 ・チャレンジタイム(自学自習教室)における学習支援(全校生徒対象の毎週水曜日の放課後と夏休み、3年生対象の土曜日(2学期以降)と冬休み) ②図書ボランティアによる円滑な図書室運営に向けての支援 ・昼休み時間の図書室の開閉館支援と生徒の見守り ・月1回の定例会(図書室内の飾りつけ、図書の廃棄作業等) ③青少対甲ノ原地区委員会活動に積極的に参加(健全育成標語、クリーン大作戦、小さな冬の音楽会)、吹奏楽部とたんぼぼ組(ハンドベルのボランティアグループ)とコラボした福祉施設での演奏活動	①学習ボランティアによる学習支援 ・数学の授業を中心に、学習ボランティアが1年間通して授業に入り支援できた。 ・チャレンジタイム(水曜日:25回、夏休み:8回、冬休み:3回、土曜日(9月-2月):12回)において、教員と意思の疎通を図りながら支援し、学力向上につながった。3年生対象の土曜日チャレンジタイムでは受験指導をはじめ、課題を踏まえ個別支援が効果的にできた。 ②図書ボランティアによる円滑な図書室運営に向けての支援 ・副校長、学校司書、司書教諭、図書ボランティアが出席する定例会を月1回のペースで実施し、図書室の運営について協議内容を確認しながら、書籍の廃棄作業、書架整理等の作業が円滑に行えた。今年度は図書ボランティアの人材を昨年増で確保できた。 ・年間を通して、昼休みと夏季休業中(8回)の開閉館の支援と生徒の見守りができた。 ③地域及び青少対主催の行事に支援、協力し、学校経営計画にある「地域に貢献する甲中生の育成」に貢献することができた。	①「確かな学力の定着と向上」に向けてさらに継続し、教職員との連携を深めながら計画的に支援していくことが重要である。 ②図書室の円滑な運営、読書環境の提供と整備に向けて、引き続き継続して支援していく必要がある。そのためにも図書ボランティアの人材確保は大きな課題である。 ③甲中美術館のリニューアル化に伴い、展示作品の入れ替え作業を計画的に進めることができた。学校提案型予算を活用して、今後はさらに甲中美術館の発展に支援していきたい。
	石川中学校	9回	①教育目標に沿い、様々な場面での活動や授業参観等を通して、学校の取組について協議を行った。特に学校コーディネーターを中心に、補習授業の取組や人員確保について話し合った。 ②学校協議委員が補習授業の様子を参観した。生徒の学習の様子や教授方法の理解をより深めた。協議会では参加生徒へどのように寄り添いながら学習を進めていくことが良いのか協議した。	①放課後の数学授業に学校運営協議会委員も参加し教員と共に教えるとともに、生徒たちと会話をする時間を持つことにより、生徒の状況理解につながる支援をした。 ②保護者への啓発のため保護者に向けたインターネットに関する知識やSNSによるトラブルについての講演会を行った。	①学校運営協議会委員が生徒に接することにより、教職員とも会話をする機会が増え、共通理解が進み、学校と共に家庭や地域社会が連携した学校づくりが行えた。 ②学校運営協議会委員が協議会に加わることで、保護者の立場からや教員への授業展開について意見・感想をいただく場となり、生徒の育成と教職員の指導力向上の一つとなった。	教職員と委員のつながりが深まりつつある。今後も、生徒たちの学力向上のため、さらに支援者を募り、放課後の補習や授業へ入っていただける人材を確保していく。今後も、道徳等の授業を参観していただき、より良い学習活動を展開するための実施方法を協議していく。
	長房中学校	7回	①今年度の重点目標の取組として、放課後学習支援教室「まなび」を行った。進め方の工夫や支援者の確保、1、2年生への呼びかけ等について協議を行った。 ②現代の家庭環境等を考えたときに、学校・地域・保護者と連携し、生徒たちに伝えていくべきことを考え、具現化できるものはないか協議した。 ③学習支援教室以外に、学校を支援できる新たな活動について協議を行った。	①基礎学力及び学力向上のため、放課後学習教室「まなび」で、学習支援ボランティアの方達が生徒たちの学習を見守り質問に答えている。同じクラスで、教員が指名した生徒の希望者に数学の基礎の補習を行った。 ②乳幼児や妊婦さんを招いた2学年の学習では保護者や地域の協力を得て取り組んでいるが、核家族化が進み命について考える機会が少ないので、他の取組を企画・検討した。 ③教職員の入れ替わりが激しいので、教員が地域を知るための研修を講師を招いて行った。	①生徒たちは、毎週木曜日の学習が定着し、個々に対応した学びをすることができ、「わかった」「できた」を実感して自信につながっている。また、数学の基礎クラスは、「まなび」と並行しているため、補習に参加しやすく、一人一人にあった振り返りができ、市の習得問題ができるようになった。 ②今年度は、予算が足りずできなかったが、来年度、市の「いのちの大切さを共に考える日」にあわせて、学校提案型予算を活用し、地域の方や保護者に来校していただき「地球のステージ」を行うことになった。 ③地域の方を講師に招いて、教職員が長房地域の歴史について学んだ。	①今後の展望としては、さらに基礎基本のクラスの声かけをし、低位層の基礎学力の定着を図っていく。学習支援ボランティアの募集を広げていく。 ②「地球のステージ」の講演を実施し、命の大切さを家庭や地域とともに考える機会にし、生徒たちの心に残るものにしていく。「いのちのミュージアム」についても検討していく。 ③今後、安全面や生活指導面についての地域めぐりや不登校生徒の対応に対する支援について検討していく。
	打越中学校	9回	①学校主体の防災訓練から脱却し、地域と運動・協働した学校運営協議会主催の防災訓練へと発展させ、より一層の地域との強い繋がりを深める。 ②漢字検定、数学検定、英語検定を準会場として学校運営協議会主導で展開する。また中学校を会場として、小学生にも実力に応じて受験することを推奨し、地域との連携及び小中一貫の一助とする。 ③オリパラ教育推進の象徴として、ボランティアマインドを育成することを目指す。	①学校主体ではなく、地域と運動・協働した学校運営協議会主催の防災訓練へと発展させることを目標に、より一層の地域との強い繋がりを深めるための取組を行った。(2020年3月7日実施予定であったが、結果的には新型コロナウイルスの影響で中止になった。) ②漢字検定、数学検定、英語検定を準会場として学校運営協議会主導で展開した。また中学校を会場として、小学生にも実力に応じて受験することを推奨し、地域との連携及び小中一貫の一助となった。 ③オリパラ教育推進の象徴として、ボランティアマインドを育成することを目指す。	①地域の多くの町内会、小学校及び、消防署、消防団、地元の企業、青少対との繋がりを一層深めることができた。 ②漢字検定、数学検定、英語検定を受検し、資格を取ることを目標にすることで、学習意欲を高め、学力向上に寄与することが可能になった。 ③ボランティア活動に参加しようという生徒が増え、地域との連帯感、一体感及び奉仕の精神が広く普及し、「共に学ぶ、人に優しい学校」という目標に近づくことができた。	①残念ながら今年度しっかり準備したにも関わらず、中止となってしまった「防災フェスタ」を来年度は更に充実した形で実施したい。 ②各検定の受検者を更に増やし、一層の学力向上の意欲喚起のきっかけとする。 ③地域清掃や祭り、防災訓練などの地域行事に積極的に参加させ、一層地域とのつながりを強化させる。
	松が谷中学校	6回	①あいさつ運動の継続、推進、活性化 ②地域と学校が連携した生徒支援、育成に向けた取組	①挨拶運動活性化に向け、生徒会活動や部活動との連携を図り、地域との連携に生徒が関わる。 ②連携する2つの小学校と、部活動見学、出前授業、体験授業等年間を通して組織的、計画的に行っている。また中央大学と連携しキャリア教育の一環として、大学見学や模擬講義に参加する。近隣の大学には学習ボランティアを派遣してもらっている。家庭科の学習の一環として近隣の幼稚園の協力を得て、1日実習を実施。	①あいさつ運動は参加生徒の数が大幅に増加し、生徒と地域の連携が深まるとともに、地域の活動に積極的に参加、協力をするなど、生徒の「地域の一員である」という意識がより高まった。(学校評価アンケート:「学校は地域とのかかわりを重視している」ことに対する生徒肯定的評価76% 保護者肯定的評価:86%) 「鹿島・松が谷あいさついっぱい」の歌を作り、地域行事等で紹介できた。 ②松が谷・鹿島地区として大きなくりの中で生徒の支援をいただけることができた。	①あいさつ運動は継続して取り組むとともに、生徒が主体として運営側に立てるようにしていきたい。 ②保・幼・小・中・高・大との連携は今後も継続し、新たな取組に発展するようにしていきたい。 防災教育の視点からの地域と学区の連携について考えていくことが課題である。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成29年度指定	上柚木中学校	10回	<p>①生徒の学力向上を図るため、学習ボランティアを活用した、夏休みの学習教室実施について協議した。</p> <p>②年間2回ずつの漢検・英検を学校運営協議会で実施する事で、生徒の学力向上と教員の負担軽減を図り、また、ボランティアによる英検学習教室を実施し、生徒の学習意欲の向上に努めることを協議した。</p> <p>③前年度より続いている防災教育を継続するために講師を招へいすることと、キャリア教育への協力のために講師を招へいすることを協議した。</p> <p>④例年続けている教職員の意見を聴くための個人懇談を行うことを協議した。</p>	<p>①夏休み前期3日と後期2日、学校図書館で午前中の学習教室を行った。地域の学習ボランティアが先生となって生徒たちが宿題に取り組むことを支援した。</p> <p>②英検・漢検を年間2回ずつ開催し、その際の集金や検定運営、直前の講習会を学校運営協議会が上中サポーターズクラブの会員とともに実施した。</p> <p>③防災教育には、首都大学東京の市古太郎教授に講師を依頼し、全生徒に対して防災授業を行った。また、キャリア教育として首都大学東京高大連携室長の河西奈保子教授に依頼し、「将来を考えた中学卒業後の過ごし方」と題して中学3年生と保護者向けに講演を実施予定だったが、感染症拡大防止のため残念ながら中止となった。</p> <p>④今年度も9月に教職員1人と学校運営協議会委員2人による個人懇談を行った。</p>	<p>①生徒が長期休業中の宿題に取り組む事で、基礎学力の向上だけでなく、宿題ができていない事による登校しぶりやその後の不登校の予防にもつながっている。</p> <p>②各種検定の案内を全校生徒に配布、保護者にメールで知らせる等の取組と、直前の講習会を行ったことで、受検者数も合格者数も増加し、学習意欲の向上にも繋がっている。</p> <p>③防災教育によって生徒が自分で考え、自助・地域との共助の意識が高まっている。</p> <p>④教職員一人ひとりと懇談することにより、教員の要望を聴くことができ、学校のまた教員の学校運営協議会についての理解を得ることができた。</p>	<p>①生徒の基礎学力向上と健全育成に向けての取組は、毎年続けていることによって少しずつ効果が表れている。今後は小中の学校運営協議会で連携を取り入れながら、継続していく必要がある。</p> <p>②来年度は1学期のうちに職員会議に参加して活動方針や活動内容の説明をおこなう事で、教員との連携をよりスムーズにしていきたい。</p> <p>③保護者や地域への認知度がまだ低いため、おたより配布などの広報活動や保護者との交流、また、小学校への働きかけによって認知度を上げる活動を行っていく。</p>
	鐘水中学校	6回	<p>①学習支援部：放課後補習教室および夏休み学習会の進め方について</p> <p>②安全環境美化部：小学校保護者の会と中学校のPTAそして児童・生徒の連携</p> <p>③広報部：広報内容の検討</p> <p>④やりみずっ子基金運営委員会：やりみずっ子基金の運営について</p>	<p>①部長を中心に担当教員と連携して、定期考査前に放課後補習教室を計20日、夏季休業中に夏休み学習会を計3日実施した。また、英検、漢検の試験監督を行った。</p> <p>②部長を中心にそれぞれの学校の担当者に声をかけ、敷地内の花壇整備を行うことができた。</p> <p>③ボランティアの人数を増やすため、わかりやすく具体的な取組を伝えるための広報誌作りをめざした。</p> <p>④市の限られた予算を補うために工夫して基金を集め、有効的に使用する。</p>	<p>①授業の中ではフォローできない生徒に対し、きめこまやかな補習指導ができた。</p> <p>②少ない人数ではあったものの、かなり敷地内の花壇整備ができた。</p> <p>③本校の活動を知って、ボランティアを希望する方が少し増えた。</p> <p>④基金を集めることができた。</p>	<p>①より効果的な活動ができるようにする。</p> <p>②生徒や家庭・地域の方が関われる機会を意図的に作る。</p> <p>③より一層の工夫が必要である。</p> <p>④基金としてできる内容がこの1年で把握できたので、計画性をもって活動していく。</p>
平成30年度指定	第三小学校	8回	<p>①学校運営協議会の取組や情報の発信について協議を行った。</p> <p>②児童が、地域と連携して安心して学校生活が送れるように協議を行った。</p>	<p>①今まで実践してきた取組を継続していき、学校運営協議会便り特別号を発行し、活動実践を周知することができた。</p> <p>②「いつでも話せる大人がいる」ということを目的に、毎週木曜日の中休みに、学校ボランティアのOGで組織しているCOCOを活用した「こっこや」を年間を通して開催することができた。また、全学年にかかわれるように場所を変えるなど改善を図ってきた。</p>	<p>①学校運営協議会便り特別号を発行し、第三小学校の取組を広く広報することができ、より充実した活動報告をすることができた。</p> <p>②回を重ねるごとに、毎週の「こっこや」を楽しみにしている児童が増え、そこでの会話を楽しんでいる姿が見られ、地域とともに、児童を見守っていく組織を構築することができた。</p>	<p>小中連携を進めていくためには、合同で学校運営協議会を開催していくことが有効である。合同協議会の運営方法について今後検討を重ねていく必要がある。学校運営協議会に対する地域や保護者の理解・協力をより高めていくために、更なる情報発信が必要である。</p>
	第十小学校	10回	<p>①防災教育及び震災対応について、各町会で行われているが、十小に関わる全ての地域が参加する防災対策(訓練)をしていく必要性について協議した。</p> <p>②学力向上の取組として、「漢字能力検定」「放課後補習教室」について協議を行った。</p>	<p>①今年度は、各町会の防災訓練に参加した。来年度以降十小で合同開催できるか検討していく予定である。</p> <p>②漢字能力検定を2月に、放課後補習教室を6月～2月に実施した。漢字能力検定の参加者は約180名、放課後補習教室の受講者は約30名であった。学校運営協議会が積極的に関わられるよう、また、学校運営協議会の存在をアピールできるよう、事前アンケートを取ったり、試験官を担ったり、表彰式を行ったりした。</p>	<p>①防災訓練の必要性を改めて感じ、来年度に向けての取組を検討することになった。</p> <p>②児童が目標をもって取り組むことができ、漢字能力検定では合格率約90%を達成することができた。</p>	<p>①防災訓練を合同で行うには、細かい調整が必要であり、様々な課題が考えられるが、実現に向けて話し合うことが重要であると考えている。</p> <p>②漢字能力検定の受検人数が10月ではなく、2月に実施したため、急増した。今後、放課後補習教室でも漢字学習を扱うと、学習への意欲もより高まると思われる。</p>
	松枝小学校	5回	<p>①保護者・地域の協力を得られるような学校運営の具現化を目指しながら、学校運営協議会の取組の組織作りと情報発信について協議を行った。</p> <p>②児童アンケートや学力調査の結果をもとに本校の特徴を分析し、本校児童にとって身に付けるべき具体的な力を明確にし、その実現に向けて学校運営の在り方について協議を行った。</p> <p>③学校が地域の防災拠点となることを見越して、地域と連携し五町会合同の防災訓練の開催について協議を行った。</p>	<p>①学期に1回学校運営協議会通信を発行し、情報発信を行っている。また、毎月配付される学校便りに学校運営協議会のコーナーを設け、会議の内容等を掲載し、情報を発信している。</p> <p>②学校・家庭・地域で共通した子ども像をもって子どもの成長を支えるために、学校の教育目標を具現化した提言を行った。</p> <p>③8月下旬に学校の体育館や校庭を使用した五町会合同地域防災訓練を実施した。</p>	<p>①学校運営協議会や地域運営学校としての認識が広がり、学校行事等への参加者や行事の運営に協力してくれる方が増加した。</p> <p>②学校ボランティアのポスターやちらしを配布し、教育活動への協力体制を構築できるよう地域へ発信し、人材リストを作成する土台を作ることができた。</p> <p>③五町会地域防災訓練を通じて、避難所の運営方法を見直すことができた。また、児童にも防災訓練に参加してもらい、地域の一員としての自覚を促した。また、学校が避難所になった時の様子を知らせてもらうことができた。</p>	<p>小中連携を進めていくためには、合同で学校運営協議会を開催していくことが有効であるが、各協議会10名ずつ参加することから、十分な協議を行うことができなかった。合同協議会の運営方法について見直しを行い、充実した会議にしていく必要がある。</p> <p>これまで行ってきた活動がようやく地域に根付き、学校運営協議会に対する地域や保護者の理解・協力が得られるようになってきたため、その体制を継続していくための取組を実施していく。</p>
由井第一小学校	9回	<p>①地域を巻き込んで活動していくためにどうしたらよいか、協議を行った。地域と連携して行う防災訓練の開催について協議を行った。</p> <p>②学校評価でのアンケート、意見欄について、学校として、学校運営協議会としてどのように対応していくか協議を行った。</p> <p>③いじめの対応について現状を伝え、子どもたちや保護者への対応について協議を行った。</p>	<p>①地域の中心になるべく、どのようにしたら地域の人たちを呼び込めるかを考え、ピオトープと田んぼの活用に着目し、ピオトープの活用についての勉強会を行った。</p> <p>②学校運営協議会の会議の中で学校の田んぼに井戸水が引かれていることを共通理解し、地域の方から田植えの指導を受けた。</p> <p>③ランチミーティングの実施は胸襟を開いて語り合える良い取組となった。</p>	<p>①学校運営協議会の存在が広く知られるようになった。地域運営学校としての認識が広がり、学校行事等に対し、ボランティアとしてかわりを持つようの方が増加した。</p> <p>②学校運営協議会委員、PTA役員、放課後子ども教室の役員の中に、それぞれが連携して取り組む必要性の理解が生じ、ビジョンを描くことや役割を分担していくことなど、次年度以降について協議することができた。</p>	<p>学校教育・家庭教育・社会教育の相互補完について協議ができたことで、学校コーディネーターの存在が改めてクローズアップされた。学校・家庭・地域が一体となるため、どのようにコーディネートしていけばよいか、次年度は学校コーディネーターとともに具現化していけるように共通理解をすることができた。</p>	

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成30年度指定	みなみ野小中学校	7回	①学校の様子や実情を報告し、どんなことが課題となっているかを話し合った。 ②学校運営協議会が中心となって、ボランティアを募っての活動が何かできないかを協議した。 ③学校運営協議会委員と教職員で懇談を行い、教職員からの要望などを把握し、より良い学校の実現のために具体的に何ができるかを協議した。	①学校運営協議会が中心になり、学校コーディネーターを活用してボランティアを募り、小学生の漢字検定を実施している。 ②青少年対策みなみ野地区委員や地域の市民団体「みなみ野自然塾」の代表者が、学校運営協議会委員になっているので、地域清掃や小学生の稲作体験など、幼児・児童・生徒が参加できる地域に密接した活動を展開している。	①漢字検定をボランティアを中心に運営することができ、次回以降継続的に実施できる展望をもてた。 ②地域住民と学校が、行事や活動を通じて結びつくことにより、児童・生徒のみなみ野の地域への愛着をもたせる機会となった。 ③学校運営協議会委員と教職員との懇談から話題となった、中学校の校庭の改良が、中学生自身の労作と市教育委員会の協力を得て、実現した。	①漢字検定を令和2年度も開催する。 ②ボランティアを保護者だけでなく、地域住民にも広げていき、学校と地域がより連携を深める組織にしていく。 ③地域防災の観点から、地域の防災訓練に、児童・生徒の参加を呼びかける。 ④学校運営協議会の活動内容を周知する点が次年度への課題である。
	君田小学校 みなみ野	8回	①サマースクールの運営について ②漢字検定の運営について ③地域防災訓練(サタデースクール)の運営について ④通学路安全確保について ⑤次年度の取組(畑プロジェクト)の計画	①指導補助として地域の教育力を積極的に取り入れてサマースクールを実施し、児童の学力向上及び定着を図った。 ②保護者、地域からボランティアを募り、漢字検定の監督者として参加してもらった。複数の教室を使って約200人が受検した。	①サマースクールでは、地域ボランティアに指導してもらうことでコミュニケーション能力と主体的に学ぶ力を付けることができ、ボランティア、児童双方にとって楽しい活動にすることができた。 ②多くの運営補助の協力の下で200人を超える児童の受検に対応することができた。	①サマースクールは、体験的な活動を重視し、学校運営協議会主導で進めることができるようにする。 ②漢字検定は、事務手続きを学校運営協議会に移行し、運営全般に進めていくことができるようにする。
	秋葉台小学校	8回	①「学校を核にした地域・家庭とともに作るコミュニティづくり」を達成するため、図書ボランティアや花壇ボランティアなどの取組の充実について、話し合った。 ②本校の課題である交通安全についての取組を充実させるため、腕章の配布やベストの配布など、より協力を得やすい状況の確保を行った。 ③30周年を迎え、学校として式典を行うサポートをお願いするとともに、学校運営協議会主催の30周年記念祭「あきばっこまつり」の開催・運営について協議し、実施した。	①ボランティアの活動については、学校コーディネーターを軸としながら、学校では経営支援部を立ち上げ、管理職とともに窓口を一本化し、整理した。 ②交通安全については、学校運営協議会の委員の方が地域協力者としてかかわるとともに、学校コーディネーターが腕章やベストを地域協力者に配布、地域とともに見守る体制作りを行った。 ③学校運営協議会の委員の方が中心になり、保護者の実行委員とともに30周年記念祭を行った。	①ボランティア活動の充実を目的に取り組んだ結果、学年便りや学校便りなど、様々な内容を翻訳し、外国籍の家庭に伝える外国語ボランティアの活動が盛り上がった。また、外国語ボランティアを中心とした英語で読み聞かせの実施も達成できた。 ②ボランティア活動を行っている方たちの協力も受け、夏に行うサマースクールも例年以上の盛り上がりを見せた。講座数が60近くで、申し込みが述べ2000人におよび、長期休業時における子どもたちの居場所づくりに大きく寄与した。 ③交通安全については、外出時には地域の方も腕章をつけ動いてくださるなど、見守りの輪が広がった。	①学校運営協議会の主催するボランティアと学校の児童の活動をリンクさせ、さらに充実した取組に変えていく。 ②ボランティア活動については、本校の保護者の組織でもある「秋葉会」との連携も深まりつつある。次年度はさらに密接に協力していく。 ③交通安全については、本校の喫緊の課題でもあり、普遍的な課題でもある。今後も見守りの輪を広げていく。
	別所小学校	6回	①SNSの危険について、児童・保護者が学び、児童の安全について考える機会を学校との連携して提供する、企画事業について協議した。 ②夏休み中に、家にいる児童の安否確認が必要であるため、保護者・地域と連携した活動を学校で行うことについて協議した。 ③障害のある人もない人も安心して暮らせる地域にする活動を推進するため、学校と連携して障害者理解教育を推進するための企画事業について協議した。	①講師を招いてセーフティ教室を実施し、SNSの危険について児童に学ばせることができた。また保護者とともに、児童の安全を守るために、今のような取組ができるのかを考えることができた。日頃から挨拶等で声を掛け合っていくことが重要であるという案が出たことにより、保護者の会の活動の推進につながった。 ②夏休み中に「夏の特別教室」を開催し、宿題や自由研究を児童とともにやる機会を作り、安否確認ができ、多くの児童の学習を進めることもできた。保護者の負担の軽減にもなった。 ③学校のオリンピック・パラリンピック教育推進につながる活動として、ポッチャのアスリートを招聘することができた。	①講師の専門的な立場からの情報やアドバイスがあり、児童のSNSの危険についての意識が高まった。また、保護者同士が、お互いに児童の安全をどう守っていくかの考えを共有することにより、地域で児童を守ろうという意識が高まってきた。 ②夏休み中の学習教室は、児童や保護者に好評であった。また、安否確認をすることができ、学校へ情報を提供することができたため、教員の負担軽減にもつながった。 ③学校が所有するポッチャセットを有効活用することができ、障害者理解教育やオリンピック・パラリンピック教育の推進にもつながり、児童の共生社会への意識を高めることができた。	①保護者に学校運営協議会とは何かを説明する機会ができ、保護者・地域が一体となって、児童の安全を守っていくという意識が高まったので、今回の事業の成果を踏まえ、児童の実態に合わせて、来年度もセーフティ教室を企画していく。 ②児童の安否確認が常に必要である現状は変わらないので、今年度の反省を生かした内容で、来年度も夏休みの学習教室を開催する。 ③共生社会への取組は、継続して行っていく必要があると考えられる。来年度は、学校が所有するブラインドサッカー用ボールを活用できる、アスリート招聘の事業を企画していく。
	第一中学校	5回	①生徒の学力について 各学年で行われている学力調査や定期考査の結果をみると、基礎的な知識や技能を必要とする問題の正答率が低いことが本校の課題として挙げられた。生徒の学力向上を考える上で、力が付く生活習慣についても協議した。 ②地域連携について 地域の方々とのふれあいや地域行事への参加を通して、生徒の地域貢献や地域への感謝の気持ちをもてるようにする取組について考えた。	①放課後学習教室を実施し、生徒の基礎学力の定着や学習意欲の向上を図っている。教員だけでなく、学生ボランティア等の協力を得て、多くの大人が生徒にかかわることができるように体制を整備している。 ②生徒の興味や関心、課題意識などに基づいて主体的に探究・活動する力を養うために、地域の方を講師として招聘し、ふれあい講座を年2回実施している。講座は、ネオテニス、卓球、ダンス、大正琴、手話、囲碁、ヨーヨーとコマ等14講座を開設し、生徒が希望する講座に参加するかたちで行っている。	①参加生徒も年々増加し、少しずつであるが学力調査における平均正答率が東京都の平均正答率に近づくなどの成果も出てきている。 ②地域の方からも好評であり、地域とのふれあいを通じて、地域の一員としての自覚や地域に貢献する気持ちをもてるようになっていく。	①生徒の学力向上を考える上で、教員の授業力向上を図ることが不可欠である。今後も授業改善のきっかけを得るために、大学等と連携した研修会を実施していく。生徒の「わかる」「できる」につながり、学習意欲が向上する授業を学校全体で考えていく。 ②今年度は、ふれあい講座以外にも地域と学校が連携した地域ボランティアを実施することができた。今後も地域と学校の連携を深め、中学生が地域の活動の中で学ぶ機会を増やしていく。

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成30年度指定	第四中学校	7回	①義務教育学校開校に向けた準備段階として、第二小学校との合同学校運営協議会開催に向けての協議を行った。 ②学校運営協議会の中で、第二小学校と第四中学校の改築についての協議を行った。	①7月と2月の年2回、授業参観を含めての合同学校運営協議会を開催した。授業参観後は小中合同で学校運営協議会を開催した。 ②学校運営協議会を利用し、所管課を招いての第二小学校と第四中学校の改築についての説明会を開催した。	①小中合同で学校運営協議会を開催することで、義務教育学校開設に向けての協働体制づくりを推進することができた。 ②地域にとって大きな課題となっている第二小学校と第四中学校の改築について、限られた人数で直接話し合う機会を設けたことで、より改築への理解を深めることができた。	①義務教育学校開校に向けて、第二小学校と第四中学校の学校運営協議会のあり方について、今後の見直しを検討していく必要がある。 ②今年度、改築についてはハード面での議題が多く部分を占めていたが、次年度以降はソフト面についての意見集約の機会を設けていく必要がある。
	檜原中学校	8回	①学校経営計画の教育目標を達成するための基本方針として示した【目指す学校像】「生徒が喜んで登校し、教職員が生き生きと勤務し、保護者や地域に愛される学校」の具現化について ②学校評価アンケート等を踏まえ、学校・地域における課題とその解決策について	①ボランティアを活用しての漢字検定や数学検定等の各種検定、放課後の補修教室の運営などの継続的な活動 ②学校環境整備について、青少年対策地区委員会やPTAとの連携による年3回の挨拶運動や地域清掃、校内花壇整備の取組	①様々な学校行事への参加や学校公開と学校運営協議会同日開催などにより、学校運営協議会の存在が身近なものとなり、教職員との協働意識が向上した。 ②小中一貫教育の取組への参画や授業参加など、学校運営協議会と教職員の距離感が縮まり働き方改革への理解が深まった。	①学校経営計画の教育目標達成のため、協議を深め具体的な参画方法について提案を行う。 ②教職員との連携を一層に深め、学校課題の解決のための協働の取組をさらに進める。 ③地域運営学校の理解を深めるため、先進校視察や、東京都、八王子市主催の研修会に積極的に参加する。
平成31年度指定	第八小学校	10回	①より安定した学校運営の実現を図るため、学校現場の情報・状況を共有し、その取組について協議した。 ②児童の学力向上につながるための支援について協議した。	①学校・家庭・地域で共通した児童像をもち、子どもの成長を支えるため、授業支援をするボランティアを募り、授業の参観、見守りを行った。 ②放課後さんすう教室の円滑な運営のため、環境整備を行った。児童の学力向上、学習意欲の向上を目指し夏休み宿題教室を行った。	①学校・家庭・地域が一体となって児童の見守り、授業支援を行うことにより、学習環境が整い、落ち着いて学習に向かう児童が増えた。 ②日常的な補習学習を継続することにより、児童が自ら学習に取り組む姿勢が身についた。	児童の学習環境の整備、学力向上につながる活動を、試行錯誤を繰り返しながら計画・実行した1年間だった。学校運営協議会の活動が、保護者・地域に少しずつ理解・協力されるようになってきたので、継続した取組を実施し、定着させていく。
	船田小学校	11回	①学力向上やその他の児童の実態(家庭環境を含む)を学校運営協議会で共通理解し、課題解決に向けた船田小学校学校運営協議会の在り方について協議を行った。 ・児童の学力向上に係る家庭の教育力 ・不登校児童の対応(家庭の支援) ・児童の健全な生活(食事)等の課題にどのように取り組むか。	①学習支援、環境整備ボランティア等の活動を充実させるための環境づくり ②学習支援、環境整備ボランティアを活用した教育活動 ③学校運営協議会予算の有効活用(ボランティア活動の活性化:漢字検定 等)	①船田小学校の経営方針にある「地域が『誇りに思う学校』」にするために、どのような取り組みをすればいいか等、地域運営学校としての在り方を協議し、2年目に向けての方向性を見出すことができた。 ②児童の学力向上、児童の実態、児童の家庭環境等を学校運営協議会の中で共通理解することができ、地域における「船田小学校の役割」について、学校が抱えている課題ではなく、「地域の課題」としてとらえることができた。 ③2年目の運営に向け、運営委員が主体的な展望をもつことができた。	①船田小学校学校運営協議会に対する保護者や地域の理解をより広げられるよう、学校運営協議会の取組の情報発信を充実させる。 ②学力向上のための取組として漢字検定を今後も続ける。 ③地域人材を発掘し確保する。 ④日常的な児童の学力定着のための補習学習を実現する。 ⑤子どもの居場所確保「放課後子ども教室」の運営機会を増加する。 ⑥「子ども食堂」の実現を目指す。
	川口小学校	5回	①本校を支えている自治会、PTA等の本校の教育活動への関わり方について、今までの関わり方や学校の現状をもとに今後の学校、保護者、地域の関わり方などについて協議した。 ②災害時に対応した危機管理体制の構築について協議した。	①川口エンドウの栽培(3年生)川学習(4年生)田植え、稲刈り体験(5年生)など今まで行ってきた地域教材を活用した学習の継続とさらに効果的な学習となるように話し合っている。 ②校内に地域教材を生かした学習コーナーを設置し、地域教材に身近に接することができるように計画をしている。	①地域清掃、防災訓練などに教職員も参加し、地域・保護者の思いを肌で感じる事ができた。 ②青少年を中心とした全校規模の防災訓練と中学校と連携した引き渡し訓練を実施することができた。	今年度、学校運営協議会が発足したので、具体的な取組についての協議ではなく、大枠での方向性や方針などが協議の中心となった。今後は協議した内容を具現化するための協議や活動を進めていく必要がある。 発足以前から継続されている活動を今後も継続していくために学校運営協議会を中心として地域、保護者の協力がさらに増えていくような体制づくりを考える。
	美山小学校	3回	①地域の人材を生かした学校教育の充実 ②複式学級に実施についての学校運営協議会の意見集約 ③学校が地域の防災拠点となることを見越して、地域と連携して行う防災訓練の開催について協議を行った。	①生活科、総合的な学習の時間での野菜作りに地域の力を取り入れ、子どもたちに楽しみながら活動できるようにする。 ②地域や保護者の要望を取り入れながら、児童に不利益のないような意見にまとめるように取り組んだ。 ③地域の方と全児童が参加する形の防災訓練を実施した。	①生活科や総合的な学習の時間の取組を、食育にまで広げることができた。時期や支援人数などまだまだ課題もあるので、今後もより効果的な計画ができるように考えていく。 ②避難所疑似体験、防火訓練等の体験を通して、月例の避難訓練よりも実際の避難に近い形の体験ができたことで、良い経験ができたと感じる。児童にも避難所の運営を手伝ってもらうことで、地域の一員として活躍できることを自覚し、自己肯定感の向上に寄与することができた。	①地域の人材は高齢者の方もいるので、寒い時期、感染症が流行る時期等、実施時期には配慮が必要である。 ②時期や支援人数などまだまだ課題もあるので、今後もより効果的な計画ができるように考えていく。 ③児童にも避難所の運営の一部を手伝ってもらうことで、地域の一員として活躍できることがあることを感じてほしい。
七国小学校	8回	今年度より、学校運営協議会をスタートさせるにあたり、学校運営協議会の取組の基盤づくりを行った。また、令和元年度の教育活動について七国小・中学校の情報交換を行い、学校運営の連携について協議を行った。	七国小・中学校の児童・生徒の様子、教育活動についての情報交換を行った。小・中学校で学区が同じこともあり、地域全体で子どもたちを育てるための協議を行った。	学校・地域(学校運営協議会委員)が一体となって情報共有をすることができた。また、学校の抱える教育問題について、委員の方々に意見をいただくだけでなく、実際の協力を得ながら、対応することができた。	小中連携を進めていくためには、合同で学校運営協議会を開催していくことが有効であったが、委員の選出や運営方法について見直しを行い、充実した会議にしていく必要がある。次年度、各回の議題の精選や、体制を継続していくための取組を考えていく。	

	開催回数	協議事項	取組内容	成果	今後の展望・課題	
平成31年度指定	四谷中学校	12回	<p>①「主体的・対話的で深い学び」に関する具体策について協議した。</p> <p>②地域全体での健全育成に関する具体策について協議した。</p> <p>③地域ボランティアの活用について協議した。</p>	<p>①アクティブラーニング推進校の研究活動や考え議論する道徳の研究活動を通して、主体的・対話的で深い学びへの授業改善に取り組んだ。</p> <p>②ラベンダーカフェを開催した。地域や保護者、新入生保護者説明会の保護者が参加し、学校が地域コミュニティの中核となっている。</p>	<p>①創価大学と連携したアクティブラーニング推進校の研究活動や考え議論する道徳の研究活動を通して、主体的・対話的で深い学びへの授業改善に取り組み、「考えをまとめ表現する力」の向上が見られた。</p> <p>②園芸ボランティアによる学校環境作りや地域との交流に力を入れている。地域ボランティアが定期的に活動し、学校環境の向上を図った。</p> <p>また、ラベンダーカフェの開催に地域や保護者、新入生保護者説明会の保護者が参加し、学校が地域コミュニティの中核としての芽を出すことが出来た。</p> <p>今後も学校と地域とのコミュニケーションの絆を深める活動を行っていく。</p>	学校運営協議会の体制を構築する。
	別所中学校	9回	<p>①学校経営計画全体の各項目につき、順次説明を受け、各々を審議した。</p> <p>②教師との面談の必要性と実施</p> <p>③学習支援(補習)の予算化および地域のパートナー組織の発掘と評価</p>	<p>①初年度であることから、学校運営協議会委員の全員が別所中学校の経営計画について、共通の理解が得られることを優先させた。</p> <p>②別所中学校の教育現場に精通している学校運営協議会委員(元PTA役員)による教師(5名)との面談を最初の取組とした。</p>	<p>①学校運営協議会委員全員が、別所中学校経営計画について、共通の理解・認識を持つことが出来た。</p> <p>②教師との面談(意見聴取)により、職務への取組、教育現場の問題、学校運営協議会への期待などを得た(現状で、PTAと学校間の深刻な問題は認められない)。</p> <p>③令和2年度当初(1学期)から、地域のシニア組織をパートナーと連携した学習支援(補習)を立ち上げるメドが立った。</p>	<p>①令和2年度、10回の学校運営協議会の開催をスケジュール化している。</p> <p>②教員との面談を継続する。</p> <p>③学習支援(補習)は、学校長の要望、主任教諭からの強い要求と期待のもと、令和2年度～、長期的展望を持って、継続的に実施していく(個別指導を必要とする生徒を対象に別所中生徒の学力の底上げに取り組む)。</p> <p>④新学習要領の実施に向け、会議の開催を通して、更なるアクションを探求する。</p>